

平成31年度
スポーツツーリズム戦略推進事業
(スポーツイベント支援委員会運営業務等委託)
実施報告書

令和2年3月

沖縄県文化観光スポーツ部

<目次>

1. 本事業実施にあたっての「基本的考え方」	
(1) 事業実施の目的	4P
(2) 事業実施内容	5P
(3) 8年間の支援から見てきた成果と課題	6P
(4) プロジェクト推進体制	7P
2. スポーツイベントモデル事業の公募	
(1) 公募資料の作成・提案受付	8P
(2) 応募要領の作成	9P
(3) 広報・周知	9P
(4) 応募者向けセミナーの開催	14P
(5) 応募枠の目的と支援費用の考え方の整理	15P
(6) 公募要領	16P
(7) 応募事業一覧	28P
3. スポーツイベント委員会の設置・運営	
(1) 支援委員会の概要	28P
(2) 第1回支援委員会の開催	30P
(3) 第2回支援委員会の開催	31P
(4) 第3回支援委員会の開催	38P
(5) モデル事業の採択	43P
4. スポーツイベントモデル事業に対する支援	
(1) モデル事業の支援	46P
(2) スポーツイベントモデル事業者に対するアドバイザー支援	48P
5. スポーツイベントモデル事業に係る効果測定	
(1) 効果測定実施概要	50P
(2) 各モデル事業調査結果	54P
6. スポーツツーリズム普及啓発のためのセミナー等の開催	
(1) 採択事業者共有会の開催	59P

7. 採択モデル事業ダイジェスト	
(1) 採択事業者 実績一覧	60P
8. 事業総括	
(1) スポーツツーリズムモデル事業実施の成果及び課題等	99P

1. 本事業実施にあたっての「基本的考え方」

(1) 事業実施の目的

沖縄県では、沖縄 21 世紀ビジョン基本計画及び実施計画において、スポーツツーリズムを推進するための各種施策・事業に取り組むことで、従来の沖縄観光に新たな付加価値を加えた魅力あふれる観光を推進し、世界に誇れる沖縄観光ブランドを形成することとしている。沖縄におけるスポーツツーリズムは、繁忙期と閑散期の格差縮小・雇用創出、新たな専門性を持つ観光産業人材の創出及びスポーツが持つ周期性による集客効果・経済効果の実現等、沖縄観光の推進に寄与することから、沖縄県ではスポーツイベントに係るモデル事業への支援を通して、スポーツツーリズムの定着化に取り組んだ。

沖縄県として平成21年にスポーツツーリズム推進に向けた取り組みを開始。平成22年からは本事業をスタートして、沖縄県内におけるスポーツイベントの定着・拡大に向けた支援を行ってきた。東京2020の開催が決まって以降、これまで以上に全国各地においてスポーツイベントが増加する中、沖縄県として競合各地に負けないその土地ならではの差別化が求められるようになって来ている。そんな今年度においてはスポーツツーリズムにおける沖縄ブランド創出を見据えた、将来への布石となる成果を目指し事業推進をおこなった。



(2) 事業実施内容

① スポーツイベントモデル事業の公募

スポーツを活用した新たな着地型観光メニューの開発等に係る提案公募にあたって、応募要領の作成、広報・周知及び提案受付等の一切の業務を実施する。

② スポーツイベント支援委員会の設置・運営

ア スポーツイベント支援委員会の開催

スポーツイベント支援委員会の設置・運営にあたって、委員選定・就任手続き等の委員会設置及び委員との調整、会場手配、委員会開催、委員会進行、資料説明及び議事録作成等の一切の業務を実施する。

(ア) 委員会委員

委員は、有識者、観光関連団体及び行政関係者等から5名程度を選定する。

(イ) 開催回数及び場所

那覇市内で3回程度の開催とする。

イ 選定業務

スポーツイベント支援委員会における選定にあたって、応募者へのヒアリング、選定基準、審査方法の検討、応募提案の整理・分析、審査資料作成等の一切の業務を実施する。

③ スポーツイベントモデル事業者に対するアドバイザー支援

スポーツイベントの企画・運営、集客方法及び協賛企業獲得等に精通したアドバイザーによるスポーツイベントモデル事業者へ、面談・メール等による助言・指導を適宜（月1～2回程度）行う。

④ スポーツイベントモデル事業に係る補助金交付等の検査業務

ア 補助金交付に係る検査及び取りまとめ

選定されたスポーツイベントモデル事業に係る補助金交付等については、沖縄県で補助金の交付決定及び補助金額の確定業務を行うこととし、それ以外の補助金交付申請受付、申請書類等の検査・取りまとめ、事業の進捗確認、中間検査及び実績確認等の業務を実施する。

イ 広報宣伝等

選定されたスポーツイベントモデル事業の広報の相互連携の可能性を検討し、効果的な広報宣伝等を行う。

⑤ スポーツイベントモデル事業に係る効果測定

ア 選定されたスポーツイベントモデル事業の経済効果等の測定

イ 選定されたスポーツイベントモデル事業の課題整理及び定着化に向けた提言等

ウ 上記ア及びイを踏まえたスポーツイベントモデル事業全体の総括

⑥ スポーツイベントモデル事業に係る精算および完了報告の取りまとめ

(3) 9年間の支援から見てきた成果と課題

過去9年間で延べ67団体の支援を行い、そのうち16団体が定着・自走化でき現在もイベントを実施。「閑散期対策」や「新規市場の獲得」といった期待される役割に確かな貢献を果たしてきた。

一方で、自走化を目指しイベントを行ってきたものの、支援後にイベントを断念している事業者も多く存在している。また、現在もイベントを行っているものの、イベントの集客部分で苦戦している事業者も多くあること、沖縄以外で同様のイベントを開催している事業者も複数見受けられることから県内事業者の疲弊が顕在化しつつあることも事実である。

支援してきた事業者をさらに定着させ、沖縄でスポーツツーリズムを発展させるには、①既にあるスポーツイベントの差別化・成熟化への支援 ②スポーツイベントにおけるノウハウの提供が必要であると考え。

支援年	事業名	自走化 (確認できたもの)
平成23年度	第1回マシカップin沖縄	×
平成23年度	石垣島アースライド2011	○
平成23年度	美ら島オキナワCentury Run 2012	○
平成23年度	プロバスケットボールをコンテンツとするスポーツブランドツーリズム	×
平成23年度	韓国・沖縄ジュニアゴルフ交流キャンプ	×
平成23年度	ECOスポーツライド&ウオーキング南城市	○
平成24年度	第56回全国サイクル大会 2012 in OKINAWA 総務ダイナミックライド	×
平成24年度	石垣島アースライド 2012	○
平成24年度	アジアジュニア競輪大会 in 沖縄	×
平成24年度	古宇利島プレイア EKIDEN	×
平成24年度	第2回マシカップ in 沖縄	×
平成24年度	第15回開港100周年記念マシカップ国際少年サッカー大会	○
平成24年度	国野電音器杯 オキナワヒルズマシカップトーナメント 2013	○
平成24年度	沖縄喜野球キャンプ	×
平成24年度	YOGA ISLAND 2013 in OKINAWA	×
平成25年度	グルミン沖縄豊6SUN&E-1	×
平成25年度	ストライダーエンジョイカップJAL沖縄ステージ	○
平成25年度	アジアジュニアゴルフフェスタ 2014 in OKINAWA	×
平成25年度	沖縄初！ 第1回国際トライアスロン大会	○
平成25年度	アジアゴルフ大会 in 富古島	×
平成25年度	沖縄やんばるアドベンチャーラリーin豊村	○
平成25年度	久米島チャムプトライアスロン大会	×
平成25年度	東アジア少年野球交流フェスティバルIN豊納村	×
平成25年度	第一回沖縄トビカールカップ国際少年サッカー大会	○
平成25年度	美ら島オキナワCentury run 2014	○
平成26年度	21世紀ビジョン沖縄の夜明け第1回OKINAWAコーポレートゲームズ	△(2017年度)
平成26年度	沖縄本島初カトルラ・本島北部初カトルラ オール名簿でプロジェクトチーム「第1回NAGOURAマラソン」	△(2017年度、2018年度未定)
平成26年度	ストライダーエンジョイカップ2014 JAL沖縄ステージ	○
平成26年度	第1回久米島トライアスロン大会	△(2017年度、2019年度未定)
平成26年度	東アジア少年野球交流フェスティバル IN 恩納村・うるま市	×
平成26年度	第23回2015おきなわマラソン ～選ばれた大会に向けた取組～	○
平成26年度	第1回沖縄トビカールカップ国際少年サッカー大会も第24回マシカップ	○

※水色 - 2019年時点でイベントの継続が確認できたもの
赤字 - 同じ事業名を二回以上支援

平成27年度	ONE PIECE RUN in OKINAWA 2016 イベント新設に向けた取組	×
平成27年度	第1回アジア国際ハーリー大会	×
平成27年度	たびー6SUP+フェスティバル	○
平成27年度	ビーチテニス・チームコンペ in 名護	△(イベント名かえて現在も継続?)
平成27年度	ストライダーエンジョイカップ2015 JAL沖縄ステージ	○
平成27年度	沖縄コーポレートゲームズ2016	○(名称変更後、継続中)
平成27年度	久米島トライアスロン大会	△(2017年度、2019年度未定)
平成27年度	アジア少年野球交流フェスティバル IN 恩納村・うるま市	×
平成28年度	ランニングバイク Okinawa シリーズ戦	○(他地域でも開催中)
平成28年度	ビーチドッジフェスティバルin沖縄2016	×(第2回まで)
平成28年度	全日本ジュニアトレイル選手権 in 石垣島オーシャンビュートレイル	○
平成28年度	第3回 NAGOURAマラソン	△(2017年度、2018年度未定)
平成28年度	第25回記念大会おきなわマラソン 県外・海外リアルオフ会広報活動	○
平成29年度	ストリートワークアウト及および競技者育成事業「WSWCF公式ストリートワークアウト日本大会in沖縄」	自走化の判断不明
平成29年度	「レキオバトル名簿 vol.2」及び「タイフェスタ in 名護2017」	
平成29年度	沖縄100Kウルトラマラソン	
平成29年度	沖縄をビーチテニスの聖地に！	
平成29年度	「ウォーキングアイランド沖縄」推進プロジェクト	
平成29年度	琉球王朝「尚巴志王」アワードを活用した県外アフォーエーション	
平成30年度	「ビーチサッカー-沖縄カップ」イベント事業	
平成30年度	「沖縄GOLF CAMP School Battle 2019」	
平成30年度	ストリートワークアウト及および競技者育成事業「WSWCF公式第2回ストリートワークアウト日本大会 in 沖縄」	
平成30年度	第3回沖縄100Kウルトラマラソン	

※水色 - 2019年時点でイベントの継続が確認できたもの
赤字 - 同じ事業名を二回以上支援

(4) プロジェクト推進体制

過去8年間の本事業の受託事業体としてスポーツツーリズムの推進・事務局運営に向け万全の実施体制で本事業に取り組んだ。

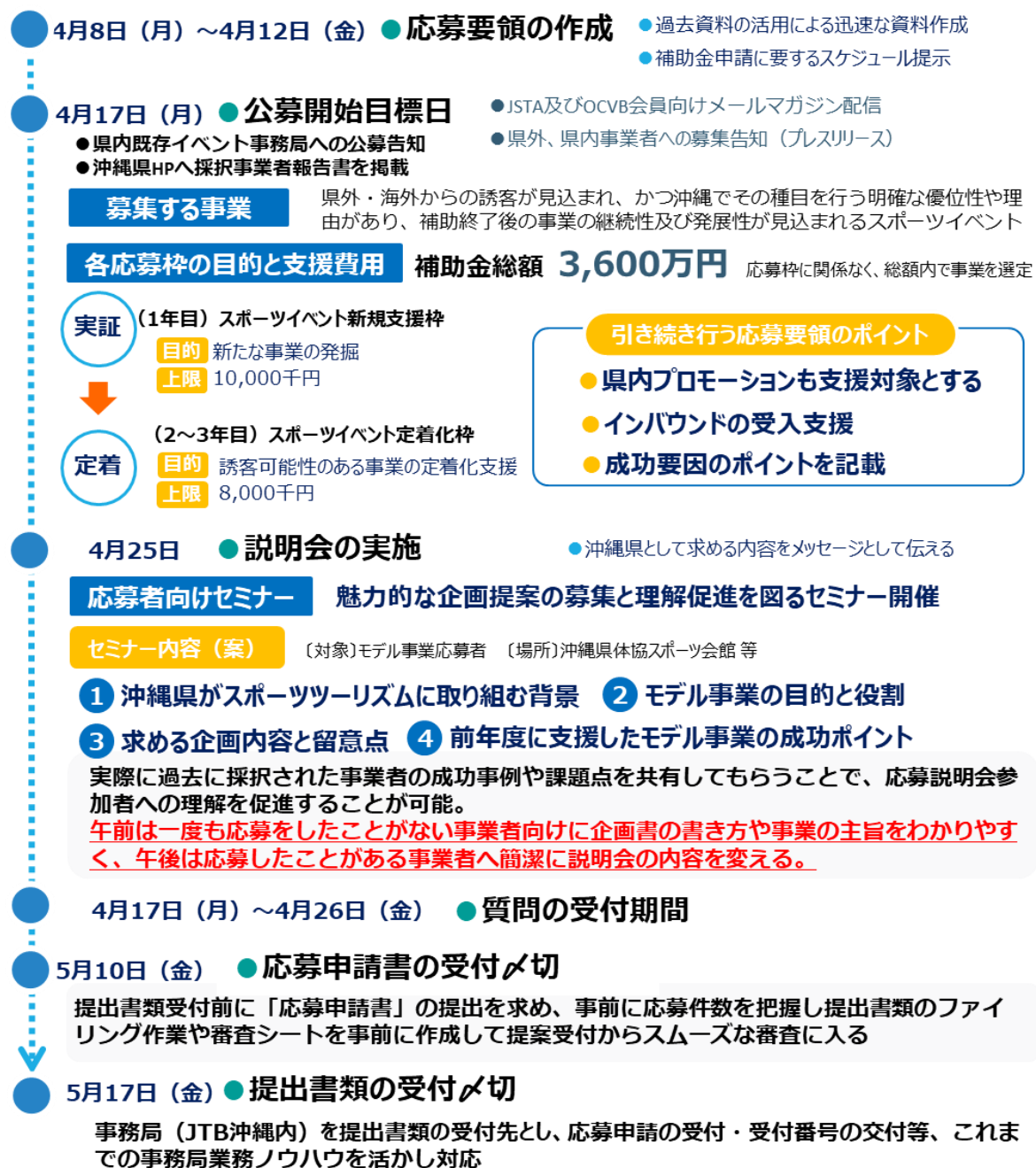
 JTB沖縄 [幹事企業]	旅行業に加え、地域観光資源を活用した旅行商品化や観光を切り口とした地域活性を行うことで沖縄県観光産業全体の発展を推進。各種誘客事業やスポーツコンベンションの誘致、サイクルツーリズム分野などの公的事业を受託する他、独自のスポーツイベントや事務局運営ノウハウを所有。
Jtb Communication Design JTBコミュニケーションデザイン	2010年以降国のスポーツツーリズムに関する業務を行い、観光庁の「スポーツツーリズム推進基本方針」の作成やプロジェクト推進に寄与。JSTA立ち上げから活動の中心を担い、全国からの情報集約を行なっている。沖縄県内のスポーツツーリズム関連事業をJTB沖縄と連携して実施。
本企業体のポイント	連携先
<ul style="list-style-type: none">① 旅行業界No.1カンパニーとしての「ツーリズム」の視点② 各種スポーツ関連事業による「スポーツ」の視点③ 過去8年間の受託事業体としての事業推進力	<p>東海大学 (体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科) 選定事業の効果測定・調査分析等</p> <p>JSTA (日本スポーツツーリズム推進機構) 公募時のメーリングリスト配信</p>

2. スポーツツーリズムモデル事業の公募

(1) 公募資料の作成・提案受付

過去 8 年間の事務局運営実績をもとに、事業受託後の迅速な資料作成による早期の公募開始と企画提案に向けたスケジュール管理を行う。これまで行ってきた募集告知先に「県内既存イベント事務局」を追加することで、既存イベントの定着・拡大を支援する他、事前の「提案申請受付」により、提出書類受付後の 1 次審査へスムーズに進められるよう事務局運営を実施した。

【提案受付等のフロー】



(2) 応募要領の作成

スポーツイベントの集客達成のためには、早い段階での参加者募集が必要となる。そのために昨年度に応募要領を活用しつつ、今年度の支援枠用にリバイスすることで早期の公募開始を実施した。また事業趣旨や目的のポイントや、スケジュール感を今年度版に反映・提示し、採択後に事業者へスムーズに交付決定できるよう公募時期から周知した。

応募要領のリバイス

過去要領の利活用

JTB沖縄では沖縄県の類似補助事業の事務局業務を受託していることから、社内で情報共有を行い、より適切に補助の考え方を整理する。

スケジュール提示

採択決定～交付決定までのスケジュール提示

応募要領作成のポイント

補助金の執行は、正式に「交付決定」されてからでなければいけないため、事業選定～交付決定までに必要な申請書類の提出期間、申請が通るまでの大まかなスケジュールを事前に提示することで、事業者による選定後の円滑な作業を進行を促す。

(3) 広報・周知

公募開始日を4月7日とこれまでの受託ノウハウを生かし、事業受託後から1週間での公募開始を実現。県ウェブサイトへの事前公示の掲載と事業公募に関するPRリリースをスポーツイベント関連団体に向け配信した。事前公示することで、応募予定者の企画作成にあてる期間を長く確保。また本公示後には当コンソーシアムのネットワークを活用し、県外のスポーツ関係者に対しても案内をかけることで、より魅力的な企画提案を広く募った。

本事業のさらなる“価値向上”に向けた『広報のポイント』

新規枠の充実を通じた新たなコンテンツの発掘と創出

- 1 募集情報の発信拡充**
WEBサイトやチラシ以外の情報発信
- 2 沖縄でイベントを開催する独自の魅力の発信強化**
事業者に刺さる沖縄ならではの強み
- 3 スポーツツーリズムの意義を伝達**
収益以外の社会的価値の伝達
- 4 沖縄のイベント開催の優位性**
温暖な気候、施設の充実、多様な宿泊施設、豊富な観光素材
- 5 スポーツに囚われない潜在ニーズの訴求**
アウトドア・レジャーを始めとする周辺ニーズ・企業とのマッチング促進
- 6 さまざまな関わり方の提示(主催、協賛等)**
自分ゴト化を強化
- 7 県外メディアを活用したストーリー性ある広報**
ストレートニュースになりがちな自治体の事業募集告知に、ストーリー性を持たせる

さらに

県内企業に対しては並行してJTB沖縄のネットワークをフル活用した認知拡大を図る。

＜スポーツイベントに関連する団体・事業者と報道関係者に向けニュースリリースを配信＞

日付	種別	タイトル
2019/4/17	募集告知	沖縄県、スポーツイベントのモデル事業の募集開始（最大 1,000 万円補助） ～沖縄でイベント開催したい、全国のスポーツイベント主催者が対象～

【広報リリース】2019/4/17 沖縄県、スポーツイベントのモデル事業の募集開始（最大 1,000 万円補助）

スポーツ団体等各位 or 報道関係各位
ニューズレター or プレスリリース



平成 31 年 4 月 17 日
沖縄県 文化観光スポーツ部 スポーツ振興課

～沖縄でイベント開催したい、全国のスポーツイベント主催者が対象～
沖縄県、スポーツイベントのモデル事業の募集開始（最大 1,000 万円補助）
温暖な気候、充実した来沖者の受入体制が整う沖縄は、多様なスポーツイベント開催が可能

沖縄県では、県内外の団体・事業者等が取り組むスポーツイベントをモデル事業として募集し、**沖縄県内におけるイベント開催の「立ち上げ」「定着」を支援して地域活性化につなげる、平成 31 年度「スポーツイベント支援事業（補助事業）」の募集を開始しました。**採択者に、「**1.新規事業支援枠（上限 1,000 万円）**」「**2.定着化枠（上限 800 万円）**」の補助を予定しています。募集開始は、4/17(水)～、公募説明会は、4/25(木)に行います（※応募条件に説明会参加は含みません）。

【応募要領】沖縄県庁 HP「公募・入札」<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/sports/>

昨年、国内各地では、「Aリーグ」「Bリーグ」などプロスポーツ観戦者やマラソンやサイクリングなど生涯スポーツ参加者の増加を背景に、スポーツを観光資源に地域活性化を推進する、スポーツツーリズムが盛り上がっています。また、今年 9 月の「ラグビーワールドカップ」、2020 年の「東京オリンピック・パラリンピック」、2021 年の「関西ワールドマスターズゲームズ」と国際的なスポーツイベントが国内で連続開催される、ゴールデン・スポーツイヤーを迎え、更にスポーツツーリズムの機運の高まりが期待されます。

沖縄県では、「スポーツアイランド沖縄」の形成実現に向け、スポーツ競技の環境や来沖者の受入体制の強化、情報発信を通じて「スポーツツーリズム」を促進してきました。現在、沖縄＝スポーツのイメージも定着し、本格的なスポーツ愛好家以外に、旅行中に気軽にスポーツに触れる一般観光客も増えるなど、幅広い方々が沖縄でスポーツ体験を楽しんでいます。

「スポーツアイランド沖縄」：<http://okinawasportsisland.jp/events/model/>

■ 沖縄県におけるスポーツイベント開催の魅力について：

1. 年間を通じてスポーツが楽しめる温暖な気候

沖縄では、冬でも 15～20℃前後の温暖な気候で、年間を通じて多様なスポーツイベント開催が可能です。

2. 「観光立県 沖縄」の充実した受入体制と県民のホスピタリティ精神

観光立県・沖縄は、平成 30 年(暦年)、観光客数 984 万 2,400 人で過去最高を記録しました。

国内外の航空路線の拡充、新空港の整備、2 次交通網、団体受入れ可能な宿泊・観光施設も充実しています。また、沖縄県民のホスピタリティ精神がイベント運営を強力にサポートします。

3. 沖縄の自然を生かしたスポーツ種目及びスポーツ競技団体に選ばれる競技環境

年間を通じて海や森林など沖縄らしい自然環境を生かした、マリンスポーツ、マラソン、サイクリング、トライアスロンなどスポーツイベントが開催されています。また、冬・春は、練習場を求めて、プロ、アマ、学生の多彩な競技スポーツ団体が沖縄をキャンプ地に選び、それらを受入れる運動場、体育館等の施設も充実しています。

■ これまで採択されたスポーツイベントの実績：



平成 30 年度の実績（左から）「世界 SW 連盟公式 第 2 回ストリートワークアウト日本大会 2018 in 沖縄」「ビーチサッカー沖縄カップ」「沖縄 GOLF CAMP School Battle 2019」「第 3 回沖縄 100K ウルトマラソン」

本事業では、平成 22 年度から 9 年間で延べ 67 団体を採択、支援しました。その中で、「沖縄コーポレートゲームズ」や「美ら島オキナワ CenturyRun」など、県内外から毎年 2,000 人以上を集客する大型イベントも生まれました。

昨年度は、4 団体を採択、支援しました。一昨年度(新規枠)、昨年度(定着枠)と 2 年連続で採択された「世界 SW 連盟公式 第 2 回ストリートワークアウト日本大会 2018in 沖縄」は、第 1 回大会の評判や県内メディア等の支援も受けて、約 2,000 人が参加しました。新規枠で採択された冬のビーチの賑わい創出モデル「ビーチサッカー沖縄カップ」は、目標(800 名)以上の 1,200 名が参加しました。また、ビーチサッカー協会、JFA(日本サッカー協会)の協力で「サッカークリニック」も実現し、話題性も高くなりました。

本事業における競技の採択は、はじめは小規模でも、将来、人気スポーツイベントになる可能性を秘める、キラリと光るスポーツも選考の対象です。応募者のクリエイティブな発想により、これまでに無い斬新なイベントモデルの応募も歓迎いたします。

スポーツアイランド沖縄 (PickupEvent) : <http://okinawasportsisland.jp/events/model/>

■ スポーツイベントのモデル事業 について :

【募集開始】 平成 31 年 4 月 17 日 (水) 予定

【募集要領】 沖縄県庁 HP「公募・入札」<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/sports/>

【公募説明会】 平成 31 年 4 月 25 日 (木) [場所: 沖縄県体協スポーツ会館 会議室 A]

● 公募事業の受託の流れ説明をご希望される方向け (10:00~12:00)

● 公募事業の受託の流れ説明が不要な方向け (13:30~14:30)

※説明会の参加は、応募条件に含まれません。

【応募申請書の提出期限】 平成 31 年 5 月 10 日 (金) 正午 必着予定

【企画提案書の提出期限】 平成 31 年 5 月 17 日 (金) 正午 必着予定

【求めるモデル事業イメージ】

- ・ 県内の他、県外/海外からも誘客が見込まれ、その種目を沖縄で行う優位性や理由がある。
- ・ 誘客力のある大型イベント、小規模等でも沖縄の新たなスポーツコンテンツとして潜在力がある。
- ・ 開催時期が、一般旅行者のシーズンオフ (11 月~2 月頃) における開催が可能。
- ・ 補助終了後の自主的な事業の継続、発展性が見込まれる。

【支援内容】

スポーツイベント新規事業支援枠	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規に立ち上げるスポーツイベントの運営に要する経費 ● 補助率 2/3 (上限 1,000 万円)
スポーツイベント定着化枠	<ul style="list-style-type: none"> ● 立ち上げ後、2~3 年目のスポーツイベントの運営に要する経費 ● 補助率 1/2 (上限 800 万円)

【本件の応募事業社からのお問合せ先】

沖縄県スポーツイベント支援事業事務局 (株式会社 JTB 沖縄内)
担当: 新崎、松岡 TEL: 098-860-1588、E-mail: sportsevent@okw.jtb.jp

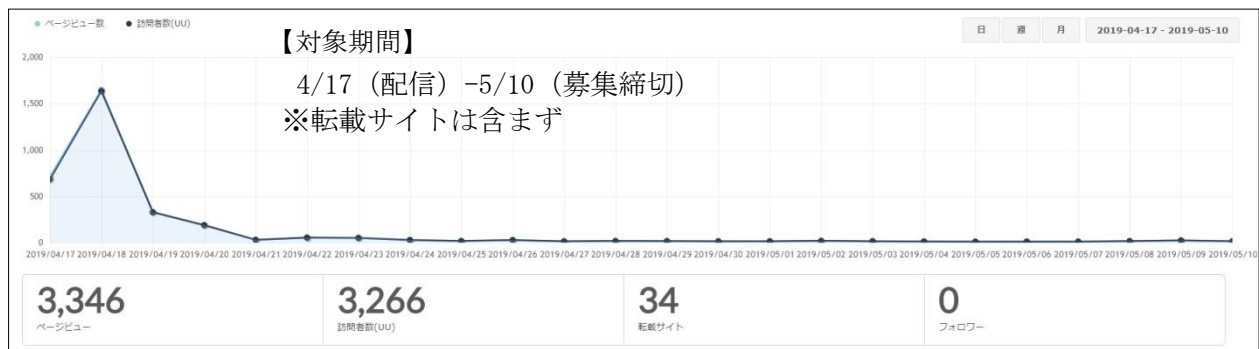
【本件の報道関係者からのお問合せ先】

同広報事務局ストライク&パートナーズ
担当: 大津 TEL: 070-5075-3230、E-mail: ohtsu@strike-pr.com

【PR TIMES】2019/4/17 沖縄県、スポーツイベントのモデル事業の募集開始（最大 1,000 万円補助）



NO	日付	媒体名	運営社	URL	広告換算
1	2020/4/17	PR TIMES	PR TIMES	https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000034792.html	—
2	2020/4/17	フレッシュアイ	スカコミュニケーションズ	https://news.freshai.com/article/fornews2/1000003/20190417174013_pr_p000000002-000034792/g/index.html	¥18,000
3	2020/4/17	読売新聞オンライン	読売新聞社	https://yab.yomiuri.co.jp/adv/feature/release/detail/00517419.html	¥36,917
4	2020/4/17	フレッシュアイ	スカコミュニケーションズ	https://news.freshai.com/article/fornews2/1000003/20190417166503_pr_p000000002-000034792/g/index.html	¥18,000
5	2020/4/17	@DIME (アットタイム)	小学館	https://dime.jp/company_news/detail/?pr=440052	¥5,400
6	2020/4/17	東洋経済オンライン	東洋経済新報社	http://toyokeizai.net/ud/pressrelease/5cb6ef237765615d34120000	¥29,334
7	2020/4/17	BIGLOBEニュース	ビッグロブ	https://news.biglobe.ne.jp/economy/0417/prt_190417_8424703271.html	¥7,328
8	2020/4/17	現代ビジネス	講談社	http://gendai.ismedia.jp/ud/pressrelease/5cb6ef4776561873a120000	¥20,517
9	2020/4/17	funDorful	びあ	http://ure.pia.co.jp/articles/-/459671	¥6,800
10	2020/4/17	朝日新聞デジタル&M	朝日新聞社	https://www.asahi.com/and_M/pressrelease/pre_1775749/	¥19,434
11	2020/4/17	産経ニュース	産経デジタル	https://www.sankei.com/economy/news/190417/pr1904170449-n1.html	¥33,200
12	2020/4/17	Techable	マッシュメディア	https://teachable.jp/archives/000000002.000034792	¥2,162
13	2020/4/17	財經新聞	財經新聞社	https://www.zaikai.co.jp/releases/790990/	¥4,639
14	2020/4/17	STRAIGHT PRESS	マッシュメディア	https://straightpress.jp/company_news/detail?pr=000000002.000034792	¥2,162
15	2020/4/17	マピオンニュース	ピオン	https://www.mapion.co.jp/news/release/000000002.000034792/	¥11,217
16	2020/4/17	iza	産経デジタル	http://www.iza.ne.jp/kiji/pressrelease/news/190417/pr19041718120449-n1.html	¥33,200
17	2020/4/17	Cubeニュース	キューソフト	http://news.cube-soft.jp/prtimes/archive.php?id=393098	¥734
18	2020/4/17	PRESIDENT Online	プレジデント社	http://president.jp/ud/pressrelease/5cb6e6c37765610b20120000	¥15,528
19	2020/4/17	Jbpress	日本ビジネスプレス	http://jbpress.ismedia.jp/ud/pressrelease/5cb6e6c1776561081c120000	¥13,695
20	2020/4/17	おたくま経済新聞	C.S.T Entertainment	http://otakei.otakuma.net/archives/prtimes/000000002-000034792-2	¥2,162
21	2020/4/17	おたくま経済新聞	C.S.T Entertainment	http://otakei.otakuma.net/archives/prtimes/000000002-000034792	¥2,162
22	2020/4/17	ジョルダンニュース!	ジョルダン	http://news.jordan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT000002A0000034792	¥4,639
23	2020/4/17	RBBTODAY	イード	https://www.rbbtoday.com/release/prtimes2-today/20190417/353810.html	¥11,320
24	2020/4/17	ZDNet Japan	朝日インタラクティブ	https://japan.zdnet.com/release/30311843/	¥14,817
25	2020/4/17	時事ドットコム	時事通信社	https://www.jiji.com/jc/article?k=000000002.000034792&g=prt	¥18,600
26	2020/4/17	@niftyビジネス	ニフティ	https://business.nifty.com/c/catalog/business_release/kecatalog_pr100000002000034792_1.htm	¥11,852
27	2020/4/17	CNET JAPAN	朝日インタラクティブ	https://japan.cnet.com/release/30311843/	¥14,817
28	2020/4/17	OSDN Magazine	OSDN	https://mag.osdn.jp/pr/19/04/17/165503	¥734
29	2020/4/17	エキサイトニュース	エキサイト	https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2019-04-17-34792-2/	¥15,610
30	2020/4/17	とれまがニュース	イトスコープ	https://news.toremaga.com/release/others/1306709.html	¥2,804
31	2020/4/17	Infoseekニュース	楽天	https://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000002_000034792/	¥11,852
32	2020/4/17	NewsCafe	イード	https://www.newscafe.ne.jp/release/prtimes2/20190417/303688.html	¥4,667
33	2020/4/17	SEOTOOLS	プラストホールディングス	http://www.seotools.jp/news/id_000000002.000034792.html	¥4,162
34	2020/4/17	ニコニコニュース	ドワンゴ	http://news.nicovideo.jp/watch/nw5167176	¥5,734
35	2020/4/17	BtoBプラットフォーム	インフォマート	https://b2b-ch.infomart.co.jp/news/search/./detail.page?MNEW54=1419937	¥14,817
合計					¥419,016



<一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構の会員向けに事業を告知>

配信日：2019年4月17日、2019年5月9日

JSTA 配信メール SAMPLE

沖縄県では、県内外の団体・事業社等が取り組むスポーツイベントをモデル事業として募集し、沖縄県内におけるイベント開催の「立ち上げ」「定着」を支援して地域活性化につなげる、平成31年度「スポーツイベント支援事業（補助事業）」の募集を開始しました。採択者に、「1.新規事業支援枠（上限1,000万円）」「2.定着化枠（上限800万円）」の補助を予定しています。募集開始は、4/17(水)～、公募説明会は、4/25(木)に行います（※応募条件に説明会参加は含みません）。

【応募要領】沖縄県庁 HP「公募・入札」<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/sports/>

本事業における競技の採択は、はじめは小規模でも、将来、人気スポーツイベントになる可能性を秘める、キラリと光るスポーツも選考の対象です。応募者のクリエイティブな発想により、これまでに無い斬新なイベントモデルの応募も歓迎いたします。

スポーツアイランド沖縄（PickupEvent）：<http://okinawasportsisland.jp/events/model/>

■スポーツイベントのモデル事業 について：

【募集開始】平成31年4月17日（水）

【募集要領】沖縄県庁 HP「公募・入札」<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/sports/>

【応募申請書の提出期限】平成31年5月10日（金）正午 必着予定

【企画提案書の提出期限】平成31年5月17日（金）正午 必着予定

【求めるモデル事業イメージ】

- ・県内の他、県外/海外からも誘客が見込まれ、その種目を沖縄で行う優位性や理由がある。
- ・誘客力のある大型イベント、小規模等でも沖縄の新たなスポーツコンテンツとして潜在力がある。
- ・開催時期が、一般旅行者のシーズンオフ（11月～2月頃）における開催が可能。
- ・補助終了後の自主的な事業の継続、発展性が見込まれる。

【支援内容】

スポーツイベント新規事業支援枠 ●新規に立ち上げるスポーツイベントの運営に要する経費

●補助率 2/3（上限1,000万円）

スポーツイベント定着化枠 ●立ち上げ後、2～3年目のスポーツイベントの運営に要する経費

●補助率 1/2（上限800万円）

【本件の応募事業社からのお問合せ先】

沖縄県スポーツイベント支援事業事務局（株式会社 JTB 沖縄内）

担当：新崎、松岡 TEL：098-860-1588、E-mail：sportsevent@okw.jtb.jp

(4) 応募者向けセミナーの開催

応募要領に記載された事業の趣旨や基本方針を正確に伝えるために「公募説明会」と公募説明会後に、応募者向けの普及啓発セミナーを開催し、スポーツツーリズムの価値と過去の成功事例等を説明する「応募者セミナー」を実施。スポーツツーリズムに対する知識と理解の底上げを図ると共に、より事業の趣旨や基本方針に合致した企画提案の応募を促した。

また、昨年度実施したアンケートより、本事業に始めて参加する事業者と、過年度本事業の説明会に来たことがある人では説明会に求めるニーズが異なることがわかったため、今年度は2回に分けて実施した。

【日時】

応募説明会・応募者向けセミナー

【本事業に初めて応募される方向け】

平成 31 年 4 月 25 日（木）午前 10 時～

【過年度に本事業に採択または本説明会へご参加済みの方向け】

平成 31 年 4 月 25 日（木）午後 1 時 30 分～

【場所】 沖縄県体協スポーツ会館 会議室 A

【次第】

1. 開会挨拶

…沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課 スポーツ企画班 班長 與儀

2. 応募要領の説明

…沖縄県スポーツイベント支援事業事務局

～質疑応答～

3. 応募者向けセミナー

…沖縄県スポーツイベント支援事業事務局

1) スポーツツーリズムに取り組む背景

2) モデル事業の目的と役割

3) 求める企画内容と留意点

4) モデル事業の成功のポイント

～質疑応答～

4. 閉会

<セミナー実施の意義>



公募説明会後に、事務局より応募者向けにスポーツツーリズムの経済効果や取り組む意義、過去の採択事業例等を紹介。「なぜ沖縄県がスポーツツーリズムを推進するか」「どのようなイベントを求めているか」を理解してもらい、より事業目的とマッチした事業企画の応募が集まる仕組みを構築した。

(5) 応募枠の目的と支援費用の考え方の整理

沖縄県の公的事業における「実証～自走化」へ向けた考え方を踏まえ、各応募枠の目的を定義した上で公募を実施。本事業の8年間の継続を踏まえ、昨年度からの仕様変更のポイントを整理し、各応募枠の支援内容を理解した上での企画提案を促した。

【募集する事業】

- ・県外・海外からの誘客が見込まれ、かつ沖縄でその種目を行う明確な優位性や理由があり、補助事業終了後の事業の継続性及び発展性が見込まれるスポーツイベント。
- ・誘客力のある大型イベントから、小規模であっても沖縄の新たなスポーツコンテンツとなるものや、年間を通じた開催が可能なスポーツイベントまで幅広い事業の応募を求める。

(6) 公募要領

平成 31 年度「スポーツイベント支援事業」 応募要領

1. 事業の目的

沖縄県では、沖縄 21 世紀ビジョン基本計画及び実施計画において、スポーツツーリズムを推進するための各種施策・事業に取り組むことで、従来の沖縄観光に新たな付加価値を加えた魅力あふれる観光を推進し、世界に誇れる沖縄観光ブランドを形成することとしている。

沖縄におけるスポーツツーリズムは、繁忙期と閑散期の格差縮小・雇用創出、新たな専門性を持つ観光産業人材の創出及びスポーツが持つ周期性による集客効果・経済効果の実現等、沖縄観光の推進に寄与することから、沖縄県ではスポーツイベントに係るモデル事業への支援を通して、スポーツツーリズムの定着化に取り組んでいる。

本事業では、スポーツをテーマに民間等が主体的に取り組むスポーツイベントの立ち上げ、定着を支援することで沖縄におけるスポーツツーリズムの定着化を図ることを目的とする。

2. 応募資格

スポーツツーリズム推進に取り組む以下の団体。

① 法人	② 地方公共団体 (市町村、一部事務組合等)
<p>※ ①の応募にあたって、提案するモデル事業に他の地方公共団体の予算及び支援を受けて取り組む場合は、当該地方公共団体の予算の概要及び担当部署に関する書類を添付すること。</p> <p>※ 複数の団体が、共同企業体及び実行委員会等を設置して応募することができる。 共同企業体は交付先となる代表幹事を指定した協定書を作成し、実行委員会等は規定（意思決定方法、会計管理方法等を含む）、役割分担等を明らかにすること。</p> <p>※ 企画提案は、1社1提案とする。また、共同企業体を構成する場合にも、他に単独あるいは他の共同企業体として提出することはできない。</p>	

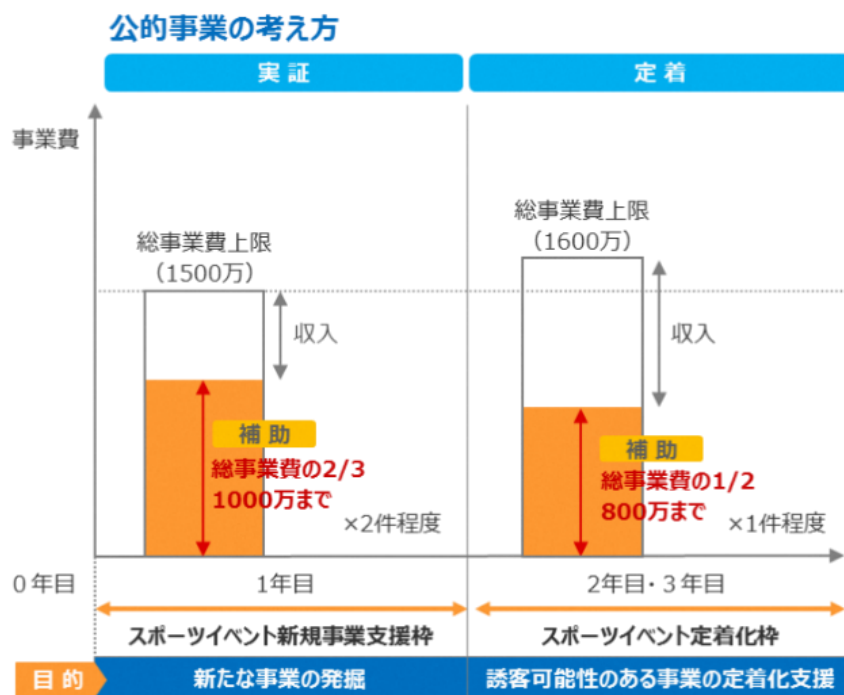
3. 募集するモデル事業

- ・県外・海外からの誘客が見込まれ、かつ沖縄でその種目を行う明確な優位性や理由があり、補助事業終了後の事業の継続性及び発展性が見込まれるスポーツイベント。
 - ・誘客力のある大型イベントから、小規模であっても沖縄の新たなスポーツコンテンツとなるものや、年間を通じた開催が可能なスポーツイベントまで幅広い事業の応募を求める。
- ※沖縄県内で開催するスポーツイベントであること。
※民間事業者等が主体的に取り組む事業を対象とする。
※実施期間は、補助金交付決定の日から平成 32 年（2020 年）2 月 28 日（金）までとする。

4. 補助金額

募集するスポーツイベントの開催実績に応じて2つの応募枠を設け、補助金額の上限及び補助率は下記の通りとする。

補助支援枠		内容	補助率	補助限度額
1	スポーツイベント 新規事業支援枠 (立ち上げ1年目)	新規に立ち上げるスポーツイベントの運営に要する経費	3分の2以内	<u>10,000千円</u>
2	スポーツイベント 定着化枠 (立ち上げ2年目・3年目)	立ち上げ後、2年目又は3年目のスポーツイベントの運営に要する経費	2分の1以内	<u>8,000千円</u>



※補助金総額は 36,000 千円とし、採択件数は事業の申請状況を勘案し調整する。

※総事業費から消費税額を引いた額に対して、上記補助率を乗じた額が補助金額となる。

※イベント収入(協賛・参加料等)を総事業費から差し引いた上で、補助金額を算出することから、収入については適切に算定すること。(本応募要領の項目 14 を参照)

※H29、30 年度に採択された事業の定着化枠への応募も可とする。但し、過去採択時の課題と改善点を記載し、継続支援が必要な理由を提示すること。また、新規事業支援枠から定着化枠までの補助は 3 回までを上限とする。

5. 補助対象経費の範囲

モデル事業の実施に直接必要なソフト面の経費。※補助対象経費の詳細については、別表（第3条関係）を参照。

【※対象とならない経費の具体例】

- (1) スポーツイベント支援事業補助金交付要領綱（別表の項目）以外の経費。
- (2) 領収書等の支払い事実が確認できないもの。
- (3) 補助対象期間外に使用した経費
（補助交付決定以前、実施期間以降に使用した経費）
- (4) 提案内容のうち、既に国等により別途、補助金、委託費等が支給されているもの、あるいは支給が予定されているものがある場合には、当該部分については支援の対象外となる。
- (5) 事業運営に直接必要ないと思われる経費。
例) 事業との関連が不明確な旅費や食糧費等

6. 実施体制

- (1) 提案された事業の実施は、補助金の交付決定を受けた提案者が自ら行うこととする。
- (2) 補助金の交付決定を受けた提案者以外の者へ、事業の一部を委託することは可能とするが、その場合は、運営事務局からあらかじめ了承を得ること。
- (3) 支援委員会等による提案の場合は、応募の際に示した構成員の役割分担の範囲内で、構成員に対し委託することができる。

7. 応募の手続き

- (1) 応募要領等の掲載

掲載期間	平成31年4月17日（水）～5月17日（金）
掲載場所	沖縄県公式WEBサイトの「公募・入札」または「スポーツ振興課」ページ

- (2) 応募説明会および応募者向けセミナー（応募資格のある者のみ）

開催日時	応募説明会・応募者向けセミナー 【本事業に初めて応募される方向け】 平成31年4月25日（木）午前10時～ 【過年度に本事業に採択または本説明会へご参加済みの方向け】 平成31年4月25日（木）午後1時30分～
開催場所	沖縄県体協スポーツ会館 1F 会議室 A 〒900-0026 沖縄県那覇市奥武山町 51-2 TEL : 098-857-0017
申込期日	平成31年4月24日（水）午後3時まで

申込方法	別紙【様式7】「出席申込書」を期日までにメール又はFAX で提出すること。 提出アドレス： sportsevent@okw.jtb.jp FAX： 098-861-1308
注意事項	※説明会への参加は、応募の要件ではない。 ※当日は、本応募要領等を印刷し持参すること。（説明会での資料配付は行わない。） ※説明会終了後、事業目的に合致したモデル事業が応募されることを目的として、応募者向けセミナーを開催する。参加を希望する団体は出席申込書【様式7】に参加の有無を記載。

(3) 応募に係る質問事項の受付（応募資格のある者のみ）

受付期日	平成31年4月17日（水）～平成31年4月26日（金）午後5時まで
受付方法	別紙【様式8】「質問書」を期日までにメール又はFAX にて提出すること。 提出アドレス： sportsevent@okw.jtb.jp FAX： 098-861-1308
回答掲載	スポーツ振興課サイトに掲載し、最終回答は平成31年5月9日（木）午後5時まで。

(4) 応募申請書の提出

提出期限	平成31年5月10日（金）正午まで
提出場所	〒900-0029 沖縄県那覇市旭町112-1 沖縄県スポーツイベント支援事業事務局（株式会社JTB沖縄内） 担当：新崎（あさき）、松岡（まつおか） ※持参、郵送、FAX、メールのいずれかにより提出のこと。ただし、郵送の場合は到着確認が可能な手段をとるものとし、提出期限内に到着すること。
提出書類	8に定める【様式9】の書類 ※応募申請書とは、事前に応募の意を確認する書類であり、後日、(5)の企画提案書及び応募書類の提出をもって正式な応募とする。
部 数	1部

(5) 企画提案書及び応募書類等の提出

提出期限	平成31年5月17日（金）正午まで
提出場所	〒900-0029 沖縄県那覇市旭町112-1 沖縄県スポーツイベント支援事業事務局（株式会社JTB沖縄内） 担当：新崎（あさき）、松岡（まつおか） ※持参または郵送により提出のこと。ただし、郵送の場合は到着確認が可能な手段

	をとるものとし、提出期限内に到着すること。
提出書類	8に定める(1)～(8)の書類
提出部数	15部(押印済みの原本1部を含む) ※提出書類は【様式1～6】の順で並べ、左横2穴パンチ(左スペース2cm以上)、クリップ止めで提出すること(ホッチキス、ファイル閉じ不可) ※8に定める書類のうち(7)(8)についてはコピー1部のみ提出とする ※定められた提出期限、部数を厳守すること。

8. 提出書類

項目	様式	備考
(1)企画提案書	【様式1】	<ul style="list-style-type: none"> ・A4版縦書きとし、15ページ程度とする。(最大20ページまで)PowerPoint等で作成の場合、様式1の記載項目を全て満たす。 ・各応募枠によって指定する必須記載項目を満たすこと。(本応募要領の項目10を参照)
(2)年間スケジュール表	【様式2】	交付決定日を平成31年7月16日と仮定し、イベント実施スケジュールだけでなく、広報計画、協賛営業等、事業にかかる一連のスケジュールを記入すること。
(3)執行体制	【様式3】	正副2名以上の専任の担当者を割り当て、本事業に係る統制及びその他事務について十分な遂行体制がとれること。
(4)収支予算書	【様式4】	<p>経費の積算項目については、以下の内容で提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人件費 ②旅費 ③会議費 ④謝金 ⑤使用料・賃借料 ⑥消耗品費 ⑦印刷製本費 ⑧補助員人件費 ⑨広告宣伝費 ⑩その他諸経費 ⑪委託費

		(注1) 各積算費目の単価と内訳を記載すること。 (注2) この事業を実施するにあたっての一切の費用を積算する。 (注3) 項目等を満たせば、別途エクセルファイル等で作成可。
(5)会社概要表 (組織図、業務内容、資格等)	【様式5】	※共同企業体を設置し応募する際は、全事業者分を提出すること。
(6)実績書	【様式6】	
(7)県税納税証明書 (法人事業税又は個人事業税)	—	(7)、(8)については、 <u>コピー1部を厳封の上、沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課宛とし、応募書類と一緒に同封する。</u>
(8)国税納税証明書 (法人税又は申告所得税)	—	※共同企業体を設置し応募する際は、全事業者分を提出すること。
(9)応募説明会出席申込書	【様式7】	※説明会への申込書は、4/24(水)午後3時までに提出する。
(10)質問書	【様式8】	※質問書の受付は、4/17(水)から4/26(金)午後5時まで。
(11)応募申請書	【様式9】	※応募申請書は、5/10(金)正午までに提出すること。

9. 提案の選考

- (1) 沖縄県が設置する、有識者で構成するスポーツイベント支援委員会において、提案された事業を審査し、支援対象となるモデル事業を選定する。
- (2) モデル事業の選考は書面による1次審査を経た後、6月中旬に実施するスポーツイベント支援委員会での最終審査(プレゼンテーション)にて選定事業者を決定し、委員会等の選考過程は非公開とする。
- (3) また、申請要件に合致する事業者について、事業実施予定場所等の確認や事業計画の詳細等を確認するため、電話やメールで事前調査を行なうことがある。
- (4) 選考は、下記の視点を総合的に勘案し実施する。

【事業目的の視点】

1	沖縄の優位性の活用	沖縄の持つ自然環境や気候、スポーツ資源、観光資源の優位性を活用し、またそのスポーツを目的に参加者が「他県ではなく沖縄に行く意味や動機」を持つ魅力的な企画か。
2	沖縄観光への貢献	事業の開催による地域経済への貢献（観光客数・観光消費額の増加等）や地域への運営ノウハウ等の蓄積が期待でき、また繁忙期と閑散期の格差縮小等、観光課題の解決につながる取組みか。
3	沖縄スポーツツーリズムへの貢献	他にはない独自の魅力を有するイベントであり、今後の拡大発展を見込んだ「将来への投資」に値する価値があるか。また、新たな観光誘客の可能性はあるか。

【事業内容の視点】

①	組織体制	開催市町村や関連競技団体との連携が構築され、運営に足る実施体制であるか。
②	意識と目的	その事業を通じて達成していくべきビジョンや目的・将来像を有しているか。
③	市場性	競技人口の大小を問わず、スポーツイベントとしてのニーズや市場の拡大が見込めるか。
④	募集告知	ターゲットが明確に定められ、また県内外のターゲットに対して直接的かつ効果的に告知できるプロモーション計画が備わっているか。
⑤	実現性	提案内容を確実に実現できる実施・運営計画がなされているか。
⑥	収益体制	収支設計が適切かつ妥当であるか。
⑦	将来性	補助終了後の事業の自走化が見込める収支計画がなされ、また継続的な集客が見込める計画を有しているか。
⑧	集客のベース	その種目に一定数の競技人口があり、定着化することで安定的な集客（収益）が見込めるか。

10. 各応募枠の必須記載項目

各応募枠の目的に沿った事業を採択するため、応募枠ごとに下記項目の記載を求めるものとする。なお、各応募枠ともに提案時に必ず県外・海外からの参加人数及び家族等の付帯的な参加者の目標値の設定を行うこと。この設定数値は採択後の事業成果の指標とするため、目標値達成に向けた事業設計と実施を求めるものとする。また目標値設置の際、類似イベントでの集客実績から集客目標人数の設定が妥当数であることを示すこと。

＜各応募枠の記載項目＞

1	スポーツイベント 新規事業支援枠	<ul style="list-style-type: none"> ・事業（種目）の市場規模・類似案件での誘客事例等、誘客に資する可能性を示すこと ・事業実施に必要な地域・関連団体との連携体制を示すこと ・沖縄の観光発展に寄与できる取組の可能性や新しい価値を有する取組であることを示すこと
2	スポーツイベント 定着化枠	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じたビジョンや目的・将来像を示すこと ・補助以降の自走化へ向けた取り組みと収支計画を示すこと

※「スポーツイベント定着化枠」については、事業採択後に過去の実施内容を示す資料（報告書・誘客実績・収支明細等）の提出を求める場合がある。

1 1. 審査結果について

- (1) 応募事業者に対して、採択及び不採択通知をすることとする。なお、通知方法はメールまたは、電話で行うこととする。
- (2) 審査内容、審査経過に関する問い合わせには応じない。

1 2. モデル事業の内容

補助金の支払いをするにあたり、前述の「事業目的の視点」と「事業内容の視点」において高い効果が認められる事業であるとともに、以下の内容にも十分な対応力を有していることを求める。

(1) 受入地域との連携	モデル事業の開催地となる市町村・関係者と十分な実施体制を構築し、近隣住民への配慮、各種申請等、事業実施に必要な地域との手続きを円滑に進めること。
(2) 企画提出書類の修正対応	事業者の選定にあたっては、提案された内容を総合的に評価し決定する。このため、業務を実施するにあたっては、県・事務局と協議して進めていくものとし、内容によって修正版の企画提案書類を提出した上で、事業の実施に臨むこと。
(3) 企画内容に沿った事業の遂行と事業進捗シートの提出	提案する企画内容に沿った事業を遂行し、事業の進捗、収支計画、集客状況などの状況を記した事業進捗シートを事務局が指定する期日（月 1 回程度）に定期的に提出すること。
(4) 参加者アンケートなどの調査業務の実施	事務局より 10 項目程度の必須項目を各事業者が実施するアンケートへ追加し、参加者や来場者に配布・記入を促した上で回収をし、集計とデータ化を行なった上で事務局へ提出すること。 ※調査項目は沖縄県と協議のうえ事務局で作成をするものとする。

	※100名程度の県外参加者の調査票獲得が好ましいが、それを下回る場合にはその理由（事業計画・内容に基づく理由や適正人数など）を提案書に記載すること。
(5) 県広報との連携	沖縄県が実施するスポーツツーリズム誘客プロモーションにて、採択事業のPRを行う。そのため、写真等の広報用素材や事業実施日、イベント名の公表等について、事業採択後に事務局へ提供すること。
(6) 県広報用写真における肖像権の使用許諾	参加者への肖像権の使用許諾について、沖縄県での使用を前提として県・事務局との協議を行なえること。 ※著名人の肖像権については使用を求めない。
(7) 経費の支払い業務及び関係証拠書類の整理・保管	事前に定められた補助額と補助対象項目に対する、経費管理と関係証拠書類の整理・保管を徹底する能力を有すること。 ※精算担当者を体制に入れること。 ※関係証拠書類は月毎に管理しそれぞれが符合するように整理すること。 なお、県・事務局において、中間検査を年数回程度実施する。 ※事業終了後、5ヶ年の間、国の会計検査院による事業実施者への検査が行われる場合があることに留意。

今年度は年3回（8月、11月、3月予定）にわたり、事務局にて事業の運営面・収支面に対するアドバイザー支援を実施予定。

また、専門家によるスポーツイベント開催・運営に関するアドバイスを月に1回程度実施予定。

13. 完了報告及び補助金の交付・支払い等

(1) 完了報告

事業完了後は速やかに下記の書類を提出すること。（詳細は補助金交付決定後に調整する。）

提出物	部数	提出期日
①事業実施報告書（概要版）	・A4-3頁程度／3部 ・電子媒体一式	※事業完了後2週間以内に提出
②事業実施報告書（詳細版）	・A4-40頁以上／3部 ・電子媒体一式	※事業完了後1か月以内に提出
③収支の状況を明らかにする収支明細書、関係証拠書類その他必要書類	一式	
④来場者などに実施したアンケートの集約と集計書類	一式	

(2) 補助金の請求及び支払い

補助対象の経費については、事務局にて採択決定通知後、県に補助金交付申請書、事業計画書等を提出した上で、県が交付決定する。

事業終了後は、沖縄県担当課及び運営事務局による完了検査合格後、補助金を請求すること。なお、概算払いも可能とするが、その内容については、個々の契約書の中で取り決める。

(3) 補助金交付決定に関する注意事項

補助金額の交付決定は、採択後の事業実施の内容や、事業終了後の関係証拠書類を確認したうえで行なうものとする。従って**採択時に通知した金額が担保されるものではない。**

提案時に設定を行った県外参加人数の目標値に届かない場合は人数に応じて変動する費用項目に対して補助金金額が変更になる場合がある。

また、県外参加人数の目標値を大きく下回った場合には、事業そのものが成立していないとして支援金額の支払いが出来ない場合があるので、その可能性が生じた場合には、速やかに事務局に報告の上、相談をして事業を進めること。

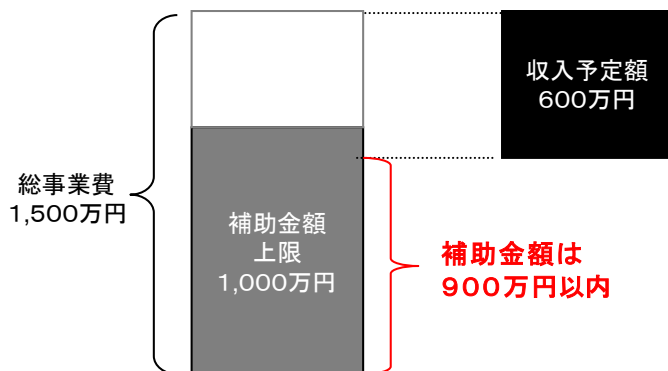
実施前、実施後に関わらず虚偽の報告を行った場合や、事業実施の準備不足や怠慢によって事業の滞りや事業中止などの事由が生じた場合には補助金の減額および採択を取り消す場合がある。

1.4. イベント収入と補助額の考え方

本モデル事業では、イベント収入(協賛・参加料等)を総事業費から差し引いた上で、補助額の算出を行なう。総事業費と収入についての考え方は下記の通りとする。

※補助額は総事業費の2/3以内(新規事業支援枠)を例として記載する。

(1) 【総事業費の2/3】が【総事業費－収入予定額】より大きい場合

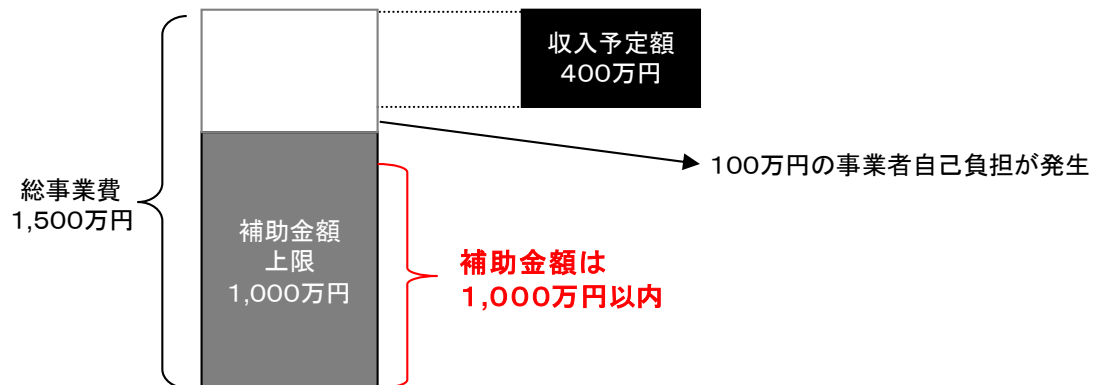


⇒総事業費の2/3(補助額の上限)が1,000万円であっても、

総事業費1,500万円－収入予定額600万円が900万円であることから、補助金額は900万円以内となる。

※実際の事業実施にあたり、収入額が予定額を超えた場合は、補助金額を減額して精算する。

(2) 【総事業費の2/3】が【総事業費－収入予定額】より小さい場合



⇒総事業費1,500万円－収入予定額400万円が1,100万円であっても、

総事業費の2/3（補助額の上限）が1,000万円であるため、補助金額は1,000万円以内となる。

※事業実施にあたり、実際の収入額が収入予定額に満たない場合でも補助金額は変更しないため、算定に当たっては留意すること。

15. 事業スケジュール



(7) 応募事業一覧

公募の結果、下記に記載する9の事業者の応募となった。

平成31年度 スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援事業） 企画提案 提出団体一覧

◆新規事業支援

選定	事業名	団体名	共同企業体	開催時期	種目
新1	RYUKYU リゾートカップ	事業者F	—	1月中旬	テニス
新2	Study Camp OKINAWA	事業者E	—	10月	沖縄空手
新3	ROXY BEACH FESTIVAL	事業者G	—	10月～11月	SUP,ヨガ、ランニング他
新4	フリースタイルフットボール国際大会	事業者D	—	11/23～11/24	フリースタイルフットボール
新5	SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる	事業者B	一般社団法人羽地ネットワーク 株式会社OTSサービス経営研究所	12月	パドルスポーツ、自転車登山
新6	アジアeスポーツツーリズム2019 in OKINAWA	事業者A	—	11月～2月	eスポーツ
新7	沖縄スラックラインフェスティバル	事業者I	—	11月	スラックライン

◆定着化

選定	事業名	団体名	共同企業体	開催時期	種目
定1	「沖縄ゴルフキャンプ」	事業者H	—	10月末～11月	ゴルフ
定2	「ビーチサッカー沖縄カップ」イベント事業	事業者C	—	12/14～12/15	ビーチサッカー

3. スポーツイベント支援委員会の設置・運営

(1) 支援委員会の概要

支援委員会の目的と討議内容については以下の通り整理。県内で観光の各分野をリードする幅広い視点と、全国的なスポーツツーリズムに精通した県外視点それぞれを持った委員を選定。

委員の継続就任により、過去の採択事業における課題や反省を踏まえた価値ある事業選定と、実績と比較した課題及び効果の検証、今後のスポーツツーリズムモデル事業の展開等について発展的な議論の展開が実現できた。

支援委員会の目的と討議内容

- ① 事業の基本方針に則った成功事例となりえる事業の選定
- ② 支援したモデル事業の実績、課題及び効果の検証
- ③ 今後のスポーツイベントモデル事業の展開等の提言

県外

[委員長] スポーツツーリズムの第一人者
原田 宗彦（過去8年継続）早稲田大学スポーツ科学学術院教授/JSTA代表理事
国のスポーツツーリズム推進者としての専門的視点。
2008年のオリンピック大阪招致活動に尽力。日本スポーツマネジメント学会（JASM）会長。JSTA会長

[委員会委員]

県内

金村 禎和（昨年継続）沖縄県文化観光スポーツ部 スポーツ振興課 課長

金城 孝（今年度新規）一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 受入事業部 部長
沖縄観光への貢献の視点

親富祖 ちか（今年度新規）公益財団法人 沖縄県体育協会 事務局長
競技スポーツ・生涯スポーツといったスポーツ振興とスポーツツーリズムの融合の視点

過去事業との比較や県内民間企業の視点で審査できる委員

平野 貴也（昨年継続）名桜大学人間健康学部 スポーツ健康学科 教授
元ウィンドサーフィン選手で日本のスポーツ学者。コーチ学、野外教育が専門で、水泳、マリンスポーツ、ウィンタースポーツと多岐にわたり、多くの有名なアスリートを育成している。

県外

県外でのスポーツイベント成功経験を持ち民間視点で審査できる委員
中島 祥元（過去2年継続）一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン 代表理事
主に「自転車」と「ランニング」をメインとしたシリーズ型スポーツイベントを全国展開し、スポーツイベントの立ち上げから企画運営、スポーツによる町おこし支援に従事。

【選定委員会の運営】

委員会の運営は、以下の3要素を重視し準備と的確な進行、取りまとめを行った。

＜委員会事前準備＞

沖縄県と協議のうえ、会場や委員会のスケジュール調整を行い、会議要項作成やヒアリングを事前に実施するなど短時間で有意義な会議とする準備を行った。

＜委員会資料＞

委員会進行台本・配布資料の作成、印刷、説明を行い、活発な議論を促し委員の専門的な知見や意見を抽出・整理し、確実な運営を行った。

＜会議の取りまとめ＞

委員会での議事録を作成し、議論経緯の記録を行い、委員の協力も仰ぎながら、全ての事業の内容や委員会での取りまとめを総括した。

(2) 第1回支援委員会の開催

日時：令和元年6月11日(火) 10:00~16:30

場所：沖縄県体協スポーツ会館 会議室 A

参加者：

- (委員長) 原田 宗彦 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
日本スポーツリズム推進機構 (JSTA) 代表理事
- (副委員長) 金村 禎和 沖縄県文化観光スポーツ部 スポーツ振興課長
- (委員) 金城 孝 一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
誘客事業部 部長
- 親富祖 ちか 公益財団法人 沖縄県体育協会 事務局長
- 平野 貴也 名城大学 人間健康科学部 スポーツ健康学科 教授
- 中島 祥元 一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン 代表理事
- (沖縄県) 與儀班長、稲福主査
- (事務局) JTB 沖縄/岩田、新崎、松岡、 JTB コミュニケーションデザイン/竹内、竹鼻

次第：

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 事業概要説明及び審査に関する説明 | 10:00-10:15 |
| 2. 最終審議 | |
| ・定着 | 対象事業：1事業 |
| ・新規枠 | 対象事業：6事業 |
| 1) 最終審議 (定着枠 1事業 新規 3事業) | 10:15-12:00 |
| お昼休憩 | 12:00-13:00 |
| 2) 最終審議 (新規事業) | 13:00-14:20 |
| 休憩 | 14:20-15:40 |
| 3) 事業採点集計及び最終審議 | 15:40-16:00 |
| 4) 今後のスケジュールについて (予備時間含む) | 16:00-16:30 |

(3) 第2回支援委員会の開催

日時：令和元年10月29日(火) 9:30~12:00

場所：沖縄県体協スポーツ会館 会議室

参加者：

- (委員長) 原田 宗彦 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
日本スポーツリズム推進機構 (JSTA) 会長
- (副委員長) 金村 禎和 沖縄県文化観光スポーツ部 スポーツ振興課長
親富祖 ちか 公益財団法人 沖縄県体育協会 事務局長
平野 貴也 名城大学 人間健康科学部 スポーツ健康学科 教授
中島 祥元 一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン 代表理事
- (沖縄県) 與儀班長、稲福主査
- (事務局) JTB 沖縄/岩田、新崎、松岡 JTB コミュニケーションデザイン/久野、竹鼻

次第：

- | | |
|--|-------------|
| 1. 事業概要説明/委員・事業者紹介 | 9:30-9:45 |
| 2. 各事業者事業内容説明
(各事業者 15分×6事業者) | 9:45-10:30 |
| 3. 意見交換会
ディスカッションテーマ；委員を交えた各事業者の課題共有・解決 | 10:30-11:35 |
| 4. 今後のスケジュールについて | 11:35-12:00 |

平成 31 年度スポーツイベント支援事業 第 2 回委員会（議事） 2020 年 10 月 29 日（火）

議事（意見交換）	
事務局	<p>◆事前共有会</p> <p>① 新規枠で採択が決定していた事業者 I について、交付決定後に十分なイベントのプロモーション期間が確保できず、集客見込みができないため補助の辞退となった。</p> <p>② 事業者 E の企画内容について、見直しが必要となったため交付決定時期が遅延している。イベント開催時期は 10 月だったが、これも年明けの 1～2 月へと変更。</p> <p>③ イベント視察日程に関する案内事項の共有・ヒアリング</p>
委員 1	<p>・本委員会は、各事業者様の横連携を強化し、共通の課題やイベントへの取り組み状況を共有することでより精度の高いスポーツイベントとすること、またその定着化を目指すものとする。</p>
事業者 B	<p>◆SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる</p> <p>・本イベントは、自然・環境をテーマとしたシンポジウムと、パドルスポーツ・登山・自転車の 3 種類のスポーツを行う。</p> <p>・自然の尊さを心と身体で体験することを目的とした環境スポーツイベントとする。</p> <p>・高い競技性よりも参加者それぞれの条件に合わせ、地域の自然を感じてもらえることに重きを置く。</p> <p>・実施は 12/14～15 の 2 日間。1 日目は環境に関するシンポジウムを行う。</p> <p>・パラチャレンジも含み、参加者は 100 名とする。</p>
事業者 A	<p>◆アジア e スポーツツーリズム 2019 in OKINAWA</p> <p>・国内、海外から選手を参加させ、沖縄県内での人材発掘を目指している。</p> <p>・アジア大会種目を積極的に支援していきたい。</p> <p>・名護市 11 月 8 日～10 日 ツール・ド・おきなわとコラボしながら開催する。</p> <p>・ITOYA 大会 準備を進めている。フェラーリオーナーが 100 人に車両の展示を協力依頼する。</p> <p>・70 台のグランツーリスモをオーナーと一緒に楽しんでもらう。</p> <p>・JTA ドームを貸し切って、アジア選手と国内選手の交流の場を図る。</p> <p>・直近のズイフトレース ツール・ド・おきなわに合わせて、オンライン自動車レースの体験会を行う。</p> <p>・実際にレースに参加される方も多数。海外ではズイフト競技人口が 25 万人程いる。</p>

事業者 E	<p>◆アジア×沖縄空手交流キャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空手の発祥の地である沖縄での開催は大きく期待されている。 ・対象はタイ・台湾・韓国とする。空手の指導者の方、小学生～高校生を計 30 名程度。 ・具体的な日程は決定していないが、開催は 1 月～ 2 月の間で開催する。 ・開催場所は、空手会館を予定。
事業者 D	<p>◆フリースタイルフットボール沖縄オープン 2019</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界大会の開催は日本でも前例がなく、沖縄での開催が初となる。 ・フランス、ベトナム、韓国などを対象に行う予定。 ・プレイヤーを増やしていくこと・分かりやすさを重視した大会を進め、「世界一魅せるフリースタイルフットボール」をテーマとしている。 ・タレントの真島ゆう氏を招聘し、広いターゲット層へ訴求する。
事業者 C	<p>◆ビーチサッカー沖縄カップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着枠 2 年目としてのビーチサッカー沖縄カップを開催する。 ・本州では冬場はかなり冷え込むので、なかなか素足でビーチ練習ができない。 ・参加チームは合計 40 チーム。前回から 45-48 チームが増えている。 ・動画でアクロバティックな動きをみてもらいたい、インターネットで配信する予定。
アドバイザー	<p>(SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる)</p> <p>物産展などを開催出来れば地域の魅力を発信しながら、地域へ経済効果として還元もできる。</p> <p>(アジア e スポーツツーリズム 2019 in OKINAWA)</p> <p>フェアリーオーナーを集めて大会を開催するというのはどういう趣旨か？</p>
事業者 A	<p>あしびなーの会場内にフェアリー 70 台を並べて賑わし誘客へ繋げる。</p> <p>↳県外向けにも広報を入れられたらよりいいのではと思う。</p>
アドバイザー	<p>(アジア×沖縄空手交流キャンプ)</p> <p>沖縄の空手家との交流会などがあればいい。流派があれば、協会さんと話をして決められたらいい。喜友名選手のエキシビションなども可能であれば出来ると面白い。</p>
アドバイザー	<p>(ビーチサッカー沖縄カップ)</p> <p>スポーツツーリズムの沖縄誘客を目標にしているので、県外の方々を多く来てもらえる</p>

	<p>ような取り組みにしていかなければならない。</p>
委員 1	<p>◆そもそも、スポーツイベントとは？</p> <p>ライツホルダー、参加者、企業の協賛の3要素で、「イベントトライアングル」と呼ぶ。さらにここに、「付加価値」を何かしら生み出さなければ、イベントとしての継続と拡大は難しい。逆にここがクリアできると、それぞれの要素が相乗効果を生み、発展が見込めるようになる。ファンの場合は、企業とのコネクションを強め、企業にとっての客層への訴求力をうまく提供していくことが長い関係性の構築になる。</p>
委員 1	<p>◆議題事業概要の説明</p> <p>(フリーディスカッション) ・協賛企業と市町村との協力 イベント運営など</p>
事業者 D	<p>特別協賛に「COMP」という企業がついている。1食に必要な栄養素を手軽に摂取できる「完全食」を提供している。このような新しいライフスタイルがブランドになると考えているので、SNSの口コミ等で広げていきたい。また、企業としても現場ではサンプリングをばら撒く、というのではなく、品質を理解しアスリートに使用してもらいたいと考えている。</p>
事業者 D	<p>Q : SEA TO SUMMIT では、モンベルとはどのような連携の仕方なのか？</p>
事業者 B	<p>個々の大会では 県内では個別に企業の協賛を集めている。</p> <p>パラチャレンジの参加者を募ったり、地域の人々との協力の中で商品開発を行ったりと、地域に根差した継続性のあるイベントの構築を目指し、旅行会社なども地域特別メニューなどを一緒に作っている。あまり周知されていないが、山道超えて滝があるなど魅力的な地域資源をツーリズムとしてうまく出せていない部分もある。SDG'sの取り組みとして協賛を希望する企業も多いが、具体的な取り組みとして何を行えば良いのか見えていない場合も多いので、そういった企業とも協力関係を作っていきたい。</p>
事業者 C	<p>大会に関しては、企業との繋がりということも大切にしたいと考えている。また、可能な限り沖縄の地元の企業に依頼をしたいと考えている。実際は、今になってようやく千人、二千人規模のスポーツイベントとなってようやく具体的な協賛金額のお話ができるようになってきていると感じる。しかし現状でも物品協賛が多く、協賛金としての協力を進めていくことが依然として課題である。</p> <p>今回はビーチコートを5つ用意し、会場全体に音楽をかける演出をしているが、これは実際であれば多額の発注となるものを、パイオニア DJ へ依頼し、著作権も含めてサウンドシステムを無償で提供いただいている。また、県内からの参加チームのコーデ</p>

	<p>イネートを旅行会社へ依頼し、西原キラキラビーチの施設使用料についても指定管理者へ協力を仰ぎ半額にしてもらうことができた。</p>
委員 6	<p>スポーツイベントを運営していくうえで、企業からのスポンサー協賛ももちろんあると思うが、市町村の単独予算を活用して行うことも可能なのではないかと考えているが、どうか？</p>
事業者 B	<p>実行委員会に名護市長に就任依頼をしているため、次年度に向けてはしっかりと予算に関する相談もさせて頂き、持続可能なものとしたい。</p>
県担当者	<p>次年度に向けて市町村と調整。スポーツイベント支援事業の補助金の財源は一括交付金が財源となっているので、県のその他の事業予算が入っていたり、国からの補助金が入っていたりしないことに注意して頂ければ本事業との併用は可能。</p>
事業者 C	<p>本事業の補助終了後も、ビーチサッカー大会は毎年継続するために西原町とも密な連携を図っていきたい。会場となる西原マリパーク周辺には今後も宿泊施設が増えることが計画されているので、このような状況も勘案しながら大会と一緒に盛り上げる企業や自治体との協力体制を整えていく。</p>
委員 4	<p>当初のプレゼンテーションよりも事業の内容がイメージしやすく、改善点が多くみられて嬉しく思う。今後も発展性を含めて尽力して欲しい。一点、集客に向けた広報の進捗状況をお伺いしたい。また、空手については、流派によってもかなり毛色が違うため、その点にしっかりと配慮して頂きたい。</p>
事業者 D	<p>全体的な広報というところでは、SNS 等を活用したデジタルマーケティングを、関係会社と協力をして発信をしている。</p>
事業者 A	<p>ゲームタイトルごとにコミュニティがあり、何万人もの規模ファン層から注目が集まる。SNS での広報活動を始めており、ズイフトの方も発信している。アウトレットモールあしびなーと宮古島市の方では、自治体との連携も強い。宮古島市も積極的に広報を行っており、非常に積極的に発信している。事務局としても、SNS を通してコミュニティへの発信をしている。</p>
事業者 D	<p>競技者の中で、様々なコミュニティの中で情報拡散が行われており、訴求力も高い。マスに向けてというよりも、ターゲットを絞った情報発信が中心となっている。</p>

事業者 B	<p>NHK の「発見 TV」で、ヤンバルの自然とアウトドアという観点で出演させて頂いた。時間带的に、参加者への訴求力があるかどうかまではわからないが、県内で視聴して頂ける方々がいればいいなという気持ちで収録した。</p> <p>自然だけを楽しんでそこで終わりではなく、それらの魅力をコンテンツとしてどう地域に還元できる価値として繋がるかというところをうまく発信してもらえたと考えている。JTA の機内誌にも起用して頂き、1 1 月 1 日に新聞にも掲載となる。ツーリズムエキスポでも実際にフライヤーを配布させて頂いる。</p> <p>一方で、SNS でのプロモーションやターゲット層への訴求はまだまだ弱いと感じているので、今後は地域の魅力発信も含めてその点にも力を入れていきたい。</p>
委員 3	<p>今回の各イベントでは、旅行会社ではなく個人旅行が多いかと思うが、宿泊・交通などを含めて参考までに、課題などがあれば共有頂けるか？</p>
事業者 C	<p>本ビーチサッカー大会にかかる参加者等の旅行手配は、一括して旅行会社に依頼をしている。ホテルやバスを含めて、渡航者が直接旅行会社へ情報提供する。</p>
事業者 B	<p>個人・少人数での競技ということもあり、個人旅行が多い。また、現地でキャンプをしたいという要望もあるので、今後は OTS のキャンピングカーなどを活用し、大会が終わった後でも地域の魅力を満喫できるような取り組みを作っていきたいと思う。</p>
事業者 D	<p>パッケージよりも個人で手配をした方が安いので、個人競技であるフリースタイルフットボールではニーズが高い。ホテルについては直接交渉で、条件を提供頂けることになっている。</p>
事業者 A	<p>名護大会については、ツール・ド・おきなわ事務局として貸し切りをしているホテルの空き状況を確認して頂きながら、部屋を割り振って頂いている形になる。あしびなーと宮古島では現地のホテルと直接話をしている。空き状況も踏まえて話しはしている。</p>
事業者 E	<p>本イベントの場合は基本的には海外からの参加者となるので、航空券についても参加者が現地の旅行会社を活用して旅行会社のほうで手配を依頼させて頂いてる。</p>
委員 2	<p>価値を作るということは大切だと感じる。事業の目的は価値づくり。新たな観光ブランドの創出。中島さんのほうからも地域とのかかわり事業を進めてほしいと思っている。地域ブランドのどれだけ貢献できるか。NAHA マラソンや尚巴志マラソン、宮古島のトライアスロンなど、地域のブランドの発信力がある。この事業としてもそういったところの価値として作っていきたい。</p>

委員 5	大学では野外活動などの研究を行っているが、SEA TO SUMMIT の環境シンポジウムはどのような内容で行ったのか。
事業者 B	色々な先生やパネリストがいらっしゃるが、鉄腕ダッシュの海のプロデュースをしている木村先生より、都合がつけば参加を頂ける予定となっている。赤土の流出などの課題もそうだが、地域の人々が気づいていない魅力も一方ではあるので、それらを眠らせるのではなく資源としてしっかりと活用できる環境を作っていきたい。地域にこれだけあることを知ってもらおうと考えている。
委員 5	もう一点、フリースタイルフットボールについてだが、世界大会などは配点方法や設営方法などにルールがあるかと思うが、大会ごとにレギュレーションを変えるなどの融通は可能なのか？
事業者 D	基本的にはどの大会も、複数のジャッジが優劣を決定する。今回は 5 人の審査員を設け、バスケットボールや FC 琉球などの関係者から多様なジャンルの専門家として多角的に審査を行う。
委員 6	情報提供として、一昨日ふるさと納税とスポーツツーリズムというテーマでとあるシンポジウムに参加したことがある。いわゆるふるさと納税の返礼品に体験型（スポーツ）を渡すのが人気。いい事例でいうと、伊豆のトレイルランニングがあるが、このイベントへのエントリー費は 2 万円。8 0 0 万円分近くのエントリーが出来ており、参加者側からしても納税と返礼品のメリットがある。自治体との連携やどういった恩恵を残せるかという点で、ふるさと納税は一例であるが新しい知恵である。
委員 1	ツール・ド・おきなわと e スポーツとして、互いのイベントのハイブリット化というところが面白いスポーツ庁の地域振興、武道ツーリズム、アウトドアスポーツツーリズムが大きな柱として動いている。すごい追い風があると感じている。今年度中に成果を収めていただければと思う。

【写真】



(4) 第3回支援委員会の開催（書面開催）

※県内における新型コロナウイルス感染拡大のリスクを回避する観点から、「新型コロナウイルス感染症対策のための沖縄県主催イベント等の開催への対応方針」が沖縄県より示され、本委員会もこれに伴い書面開催となった。

◆アジア e スポーツツーリズム

アジアeスポーツツーリズム2019 in OKINAWA		
委員	総評	改善点
委員 1	数字的には成功を取めたイベントと思われる。県外参加者も多く、3か所で行われたイベントは盛況であった。本イベントの利点は、eスポーツ関心層とSNS利用層が重なっている点で、今後のツーリズムの可能性を広げたいという点で評価できる。今後の、沖縄の文化ツーリズムのコンテンツとして発展が期待できる。	今後、イベント開催の社会的意義を付加して価値向上を目指すことにより、沖縄全域でのeスポーツツーリズムの拡大を目指すことが可能となる。アジアからの参加者に関する情報が少ないため、今後の発展の可能性を予測することは難しいが、今後、ターゲットを明確に定めたマーケティングを展開して欲しい。
委員 2	アジアで盛んなeスポーツのイベント開催は、地理的な面からも本県の観光振興にとって優位性があると思われる。集客実績から見ても、その効果は大きなものがある。	eスポーツをスポーツの概念に含めるかは、スポーツ庁ではまだ検討中であるが、ツーリズムの素材としては、可能性は大きいと思われる。国内外の各地で同様のイベントが行われており、今後もさらに各地での開催が展開されていくと思われることから、沖縄での独自性をさらに高めていくことが必要であろう。
委員 3	ツール・ド・おきなわといった世界的に知名度の高いeスポーツコンテンツの親和性をeスポーツのコンテンツメニューとうまく繋げている点については、とても斬新であり、当該eスポーツの知名度の向上のみならず、既存のeスポーツコンテンツを多角的な視点で発展につなげさせる機会を与えるものと考えられ、当該eスポーツイベントの沖縄観光への貢献度についての可能性は大きいと感じる。実際、各大会ともに一定の参加人数の確保が行えており、当該コンテンツの発信力並びに魅力を感じた。ただし、一般のスポーツとことなり、eスポーツについては、さまざまなネガティブな意見を含め意見があるので、そうしたネガティブな意見に対して回答せずとも、ポジティブな情報として発信する工夫を持つとよいのではないかと感じた。たとえば、参加者のモチベーション、気分の好転、あるいは、集中力の強化が図れたなど、当該イベントから様々な前向きな情報を積極的に発信すると当該イベントの厚みが出てくると感じる。また、イベント運営についても、各自自治体との協力を得たことによる運営面、集客が図れたことから、事務局の運営能力は高かったのではないかと考える。	上記にも記載したとおり、eスポーツについては、後ろ向きな印象を抱く方が多い。今回のイベントから得た前向きな情報を積極的にメディア、あるいは協力してもらった市町村から地域へ発信して、当該イベントの次回の発展へと足掛かりにしていきたい。経済波及効果はもとより、現代における若年層の「人材育成」で当該イベントが果たしたものはどのような要素があったか等整理して発信すると良いのではないかと感じた。そこに科学的なデータなどを持って仮説でも良いので、eスポーツの可能性を発信すると良いのではないかと。また、自走化に向けて、沖縄大会の関連グッズ開発、販売や、話題性を広げるための関連したコンテンツの開発、あるいは参加者による沖縄に接点があるコンテンツの開発についてのコンテストコンペティションの実施など地域、参加者とともに作り上げるイベントになると安定的な運営が期待でき、定着していくのではと考える。
委員 4	昨今、世界的に注目をあつめるeスポーツは、集客のコンテンツとして高い可能性を潜めていると言えるが、反面、ネット配信等による視聴が可能なことから必ずしも現地に足を運ぶ必要性がない面もある。そのような中、今回実施された事業において集客目標を達成していることから一応の誘客はできたと思料される。事業結果から、その要因は実際のスポーツ大会会場での実施や関係業者との協力連携、会場地市町村との協力体制の構築だと思料される。今後も注目が高まり集客の高いコンテンツになると期待できるが、前記のとおり必ずしも現地に足を運ぶ必要性がないという面もあることから、沖縄県への誘客には、eスポーツ大会において体現できるような付加価値を加える企画や関係団体等との協力連携が重要になっていくと思料される。	
委員 5	①沖縄の優位性、自転車の国際的イベントやアウトレットモールなど開催しており、それらの集客を利用してきていることも沖縄県の優位性を生かしていると考えられる。②沖縄観光への貢献。③eスポーツツーリズムへの貢献。ツール・ド・おきなわとあしびなーで開催されたイベントでの参加者が多く、集客に成功している。本イベントのために来県しているかは不明であり、観光やツーリズムへの直接的な影響はわからない。ただ結果的に多くの人が体験しており、今後の可能性を感じる。④事業内容、⑤イベント運営、適正に運営されており、さらなるスポンサーの獲得が見込めると思う。	次年度、県外からより多くの参加者が来島するように、ぜひ魅力的なパッケージツアーを企画してほしい。
委員 6	①沖縄の優位性：名護大会では既存のeスポーツイベントで既に成功を取っている「ツール・ド・おきなわ」と連携して実施しており、沖縄ならではの取り組みとなっている。 ②沖縄観光への貢献：前述のZwiftは世界中に100万人を超えるユーザーがおり今後Zwiftとの連携を強化できれば（まずは公式コースに登録されること）、沖縄観光へのPR効果は計り知れない。ただし今回の単独で評価すると、まず総参加者数、県外参加者数ともに膨大過ぎて、計測方法には疑義が残る。観戦者は、元々会場にいた人がたまたま当イベントに立ち寄ったことも十分考えられる。 ③eスポーツツーリズムへの貢献：上記と同様に、実際の集客数（このイベントがあったからこそ沖縄を訪れた人の数）がどれほどいたのか判別しづらいため評価が難しい。次年度以降、実際の集客数を正しく計測することを検討してほしい。 ④事業内容、⑤イベント運営：とはいえイベント自体は盛況に終わっているようであり、内容・結果共に評価できる。また1事業ながら3か所で開催している点も非常に意欲的かつ、各大会分野相乗効果も期待ができる。 *eスポーツが特に顕著ですが、「来場者数の計測方法」については事務局で一定のルールを決められたほうがよいように感じました。	名護大会では既存のeスポーツイベントで既に成功を取っている「ツール・ド・おきなわ」と連携して実施しており、沖縄ならではの取り組みとなっている。またZwiftは世界中に100万人を超えるユーザーがおり今後Zwiftとの連携を強化できれば（まずは公式コースに登録されること）、沖縄観光へのPR効果は計り知れない。次年度具体的な提案を期待したい。ただし今回の単独で評価すると、まず総参加者数、県外参加者数ともに膨大過ぎて、計測方法には疑義も残る。観戦者は、元々会場にいた人がたまたま当イベントに立ち寄ったことも十分考えられる。 次年度以降、「当イベントがあったからこそ沖縄に訪れた人数」を、正しく計測できる取り組み・施策を期待したい。それが可視化・数値化できればさらに事業としての評価が高められる。1事業ながら3か所で開催している点も非常に意欲的かつ、各大会間の相乗効果も期待ができる。この点（各大会間での相乗効果）も次年度さらに高め、またその効果を具体的に示していただくと、さらに評価が高められる。

◆フリースタイルフットボール沖縄オープン2019

フリースタイルフットボール沖縄オープン 2019		
委員	総評	改善点
委員 1	室内イベントなので沖縄の優位性は感じられないが、参加者の目標人数を上回り、集客イベントとしてはまずまずの結果を残した。ただ観客数のカウントに関しては、集計の方法等、疑問が残る数字となった（すなわち人が集まる場所で行ったイベントのため、観戦意欲を持った人の実数は不明⇒アンケートの数が少ない理由とも関連？）。しかしメディアと協賛企業を増やすことによって露出効果が高まれば、将来的に伸びる可能性はある。次回は、沖縄で行う意味付けも必要で、例えば地元のプロチームとの連携は、沖縄でのフットボールカルチャーの育成などの視点も加えて欲しい。	海外からの参加選手も多く、今後沖縄をフリースタイルフットボールのメッカにする動きが加速化することを期待する。オリンピック種目になったプレーキンのように、このスポーツを制度化することで、ファンの数も増え、イベントも盛況になっていくと思われる。その意味で、アフタージャムを使ったマーケティング等、これから発展する余地は大きいと思われる。
委員 2	沖縄の優位性や観光への貢献の観点からは、室内競技であること、規模拡大等に限界があることなどから、限定的な感じは否めないが、県外・海外からの参加者が目標値を上回るなど、大会自体はうまく運営されているように思える。	今後、本県を聖地化するのであれば、県内でのフリースタイルフットボールの普及促進を図り、県内競技者を増やしていくことも必要である。また、本県観光への貢献を考慮すると、規模の拡大等も検討していく必要がある。
委員 3	初回ということもあり、課題はあったようだが、世界からトップクラスのプレイヤーを誘致できたのは大会の核を設けることが出来て評価できると考える。一方、次回は、沖縄観光への貢献という観点からは参加者についてもさらに目標値を上げねばならないのではと考える点においては、このコンテンツがリーチできるマーケット規模どの程度あるのか、描かねばならないのではと感じている。実施場所の選定、ローカルメディアとの連携も評価に値すると考える一方、外のメディアや、SNSなど、沖縄以外での絵エリアにおいて、どのような反応があったのか、あるいは今後見込みがあるのか、報告書ではよく読み込みがないので当該データがあるのではれば是非その点も踏まえて次回の計画に盛り込んでいただきたい。	スポンサーとの連携も次回以降可能性があるとのことであり、当該スポンサーのネットワークや、あるいは今回の開催場所となったイオンなどと早めのコンセプトづくりをしてイベントの準備をされると良いかと思う。場所柄、国際的なコミュニティが多い地域でもあるので、英字メディアなど各国際関係機関と連携してインターナショナルな雰囲気や当該イベントにおいて創り出すと、世界への発信にもつながり、拡充が図れると思う。また、SNSの発信が目的にならぬよう戦略としてどのような反応があったか等データの蓄積をすることで次回以降のプロモーションへの展開に役立たせることが可能だと考える。フリースタイルの聖地として沖縄の関わりをさらに売ってするためのアイコンの活用、プロモーションの工夫、マーケティングの強化をさらに努めていただきたい。
委員 4	特に沖縄の独自性を前面に出したイベントではないものの、実際イベントを体感したところ、観覧者がフリースタイルフットボール目当ての観客なのか、たまたま会場となった店舗への来客が観客となっているのか線引きはできないが、イベントへの注目度が高いことは感じられた。今後、継続的に実施し、その効果を見ていく価値はあるのではないかと思われる。しかし、参加人数、付帯参加、目標200名と掲げているが実績不明となっているなど、企画提案当初に目標を立てる時どのように把握することを想定していたのか疑問があるなど、今後継続実施していくのならば、自走に向けた更なる企画の精度向上や的確な目標設定の必要があると思慮される。	
委員 5	①沖縄の優位性、②沖縄観光への貢献③スポーツツーリズムへの貢献、イベントへの参加者（出場者）数が限られており、参加者による観光やツーリズムへの貢献は少ない。本イベントを目的とした県外からの集客数が不明のため、貢献度を計りにくい。次年度は県外からの観客数をカウントしてほしい。④事業内容、フリースタイルフットボールの聖地化に向けた取り組みとしては効果的であったと思われるが、スポーツツーリズムの活性化や国内外からの需要創出という目的が達成されているかは疑問であった。⑤イベント運営、スポンサー継続など資金面での運営は順調と思われる。	沖縄からの参加者が目標よりもかなり少ない。県内への周知、参加者増に向けてさらに工夫が必要。
委員 6	①沖縄の優位性：簡易報告書のみでは、それに関する記載がほとんどなく評価がしにくい。 ②沖縄観光への貢献：報告書の記載では、大会運営以外の、経済活動を誘引する施策はできなかったとある。県内消費額も約2万円と低い。次回以降そのあたりの具体策を期待したい。 ③スポーツツーリズムへの貢献：県外、海外からの参加選手数が目標を上回ったことは評価できる。県外からの集客が73名で補助金額が約462万円なので一人当たりの獲得単価は約63,000円と比較的低い点も評価できる。またこの事業は参加型（選手）でもあり、観戦型（来場）でもある。来場者のうち県外からの催事目当てに来る客がどの程度いたのかを計測・数値化し、それを伸ばす施策ができればさらに面白い。 ④事業内容、⑤イベント運営：金額不明だが、協賛社を獲得でき、また次年度の継続も確約を取っている点は評価できる。自走化にもつなげやすい。	報告書の記載では、大会運営以外の、経済活動を誘引する施策はできなかったとある。県内消費額も約2万円と低い。次回以降そのあたりの具体策を期待したい。 県外、海外からの参加選手数が目標を上回ったことは評価できる。県外からの集客が73名で補助金額が約462万円なので一人当たりの獲得単価は約63,000円。次年度申請に当たりさらにコストパフォーマンスを上げられる（獲得単価を下げられる）と、県としては効果的な事業となり、支援も継続しやすいと思われる。 この事業は参加型（選手）でもあり、観戦型（来場）でもある。来場者のうち県外からこの催事目当てに来る客がどの程度いたのかを計測・数値化し、それを伸ばす施策を提案いただくと、次年度も支援しやすくなると思われる。 金額不明だが、協賛社を獲得でき、また次年度の継続も確約を取っている点は評価できる。次年度、協賛金の額が補助金を上回るスキームが作れば、自走化にもつなげやすい。

◆Asia×OKINAWA 空手交流イベント

Asia×OKINAWA 空手交流イベント		
委員	総評	改善点
委員 1	沖縄での空手イベントは、沖縄文化の優位性を活用できるイベントであるが、コロナウィルスの影響もあり、集客は低調であった。ただし、本事業の趣旨であるアジアとの空手交流に関しては、空手の発展だけでなく、将来のスポーツツーリズムの発展に向けて重要な意味を持つと考えられるので、継続した実施が望まれる。しかしながら、イベント運営については、参加者募集の段階での読みの甘さが露呈した結果となった。総事業費の額から見て、わずか10名の集客というのは非常に残念である。韓国と中国のネットワーク不足について、今後大きく改善されることが期待される。	この企画は、空手指導者というコアなターゲットがメインなので、指導者向けの観光商品化が必要となる。アジア各国の空手関係者との連携だけでなく、指導者にとって大きなメリットが生じるような証明書の発行や、空手会館でのプログラム展開など、ツーリズムとは別の修練や修行の要素を強調することが重要である。
委員 2	武道ツーリズムは、スポーツ庁において重要なコンテンツとして推進されている。また、沖縄発祥の空手は、本県のスポーツツーリズムを推進する素材として期待がされているものの一つである。空手を素材にアジアと沖縄をつなぐというテーマはよいが、本県の観光振興に寄与するまでの実績としては弱いように思える（この点は、新型コロナウイルスの影響があり、やむを得ない部分もある）。	ツアー（イベント）の内容をさらに充実するとともに、県内各道場への展開も含めて、戦略を考える必要がある。量と質の両方とも、まだ不十分に思える。県内関係者と連携しつつ、沖縄伝統空手の歴史や技術的な面も含めて、その魅力を十分に理解した上で、イベント内容を作り込むことが、この種の事業には必要であろう。
委員 3	様々な流派がある沖縄の空手において、参加者自身が学んでいる流派以外の流派について学ぶことが出来、かつ、その関係者らと交流を図ることは「沖縄・琉球の空手の幅を広げ、理解と普及を広げる」意味で貢献したと考える。一方、計画の段階から様々の地域からの誘致を検討していたが、結果、中国や、韓国については実施できなかったという結果は、計画の根本的な組み立て方や、あるいは地域の情報について精度が高かったか、どうか振り返るべきだと考える。また、指導者の養成が目的だが、果たしてその必要性や、あるいは類似した事業がないかどうかも含めて再検証してみた方が良いのではと感じた。異なる流派の空手を学ばせるのではなく、それぞれの流派の真髄を伝える内容とする、など目的についても検討すると良いかと考える。総体的な事業の考え方については賛同できるので、事業の精度を高めるよう努めていただきたい。	一般的な「指導者の普及事業」のみならず、沖縄県内の空手にまつわる場所、施設や、関係者についてのレクチャーなども充実させると、技術面だけでなく、本来の沖縄・琉球の空手の背景について参加者らは学ぶことが出来、名実ともに「指導と沖縄・琉球空手」を世界中で拡げる担い手と育成できるのではないかと感じた。また、次年度に向けて実施されるのであれば、海外でのエリア選定の際には、各流派へのヒアリングや情報収集をもう少し強化されると良いのではないかと感じた。また、10名の参加者が空手の技術面以外で何を学べたか、習得できたか報告書で表すと尚よいと感じた。
委員 4	「空手の発祥地沖縄」という着眼点での事業展開、スポーツツーリズムへの貢献という点では評価できるが、事業着手が遅く、イベント運営が充分でない。また、実績が今後どのようにつながるのか、事業をどのように改良していけば自走につながるのかなど、参加者の分析などの必要があると考慮され、その材料となるアンケート結果なども欲しかった。集客目標の達成のための誘客への取組強化など今後、課題への取組が重要となる。	
委員 5	①沖縄の優位性、空手の発祥地である沖縄の優位性は十分に発揮されている。②沖縄観光への貢献、コロナウィルスの影響もあり、致し方ないこともあるが、10名の参加者では観光に貢献したとは言えない。③スポーツツーリズムへの貢献、参加者が当初計画よりも少なかったことは残念であるが、参加者は満足しているようであり、内容をさらに充実させることでツーリズムに貢献する可能性はあると考える。④事業内容、当初の計画とは異なるので何とも言い難いが、タイからの参加者が得られたことは評価できる。⑤イベント運営、この実施内容で、480万円を支出し、300万円を補助すべきか疑問である。	コロナウィルスの影響もあり、致し方ないこともあるが、集客があまりに少ない。次年度は中国、韓国からの参加を実現してほしい。そのために各国道場とのつながりを強化し、行政と連携して動ける体制を構築してほしい。
委員 6	①沖縄の優位性：琉球空手という沖縄独自の文化に着目している点は評価できると考えます。 ②沖縄観光への貢献：単発での集客には苦戦しており、一人当たりの獲得コストが高いことが問題。次年度この部分の具体的な改善策が認められないと、観光への貢献度合いは低いと言わざるを得ず、支援の継続には疑問が残ります。 ③スポーツツーリズムへの貢献：申請時点では、子供を対象にしており単発での経済効果のみならず、将来的なスポーツツーリズム（武道ツーリズム）の発展につながる可能性は評価できました。しかしながら結果は子供たちではなく指導者になっており、申請時に謳っていた事業効果と異なっているものになっており残念です。 ④事業内容、⑤イベント運営：申請時点と異なる内容（対象）になっており評価がしにくいので、申請書時点の実際の事業内容に変更があった場合、どの程度まで認めるべきなのかはルール化されてもよいのではと感じました。	琉球空手という沖縄独自の文化資源に着目し、海外からの集客を図ろうとしていること、また子供を対象にすることで単発的な来訪による経済効果のみならず、将来的なライフタイムバリューを上げようとしている考え方を評価していたが、結果は子供たちではなく指導者になってしまった。申請時に謳っていた事業効果と異なっており残念。 申請書時点の予定では約680万円の補助に対して海外からの集客数が32人（1人当たり約21万円）であったが、一人当たりの補助金額が高いということで収支の見直しを要請した経緯がある中で、結果的に補助金額が約300万円に対して集客数が12人（1人当たり約25万円）と、コストパフォーマンスとしてはむしろ下がってしまったことが残念。1人当たりの獲得コストを下げられる仕組みができると、よりよい事業（＝支援を継続しやすく、自走化にもつながる）となる。 コロナウィルスの問題は今年特有の事情。集客に苦戦した原因を、複数ある要因毎に分解して評価し、対策を練られることが求められる。 タイ、台湾共に、今回の集客までは至っていないが次につながる成果があった、との記載があるが、具体的にどのような成果があり、次年度以降の集客アップにつなげられる見込みがあるのか、具体的に示していただくと説得力が上がり、支援しやすい（次年度申請時）。

◆SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる

SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる		
委員	総評	改善点
委員 1	沖縄の魅力を最大限に活かしたイベントで、スポーツツーリズムへの貢献といった点で、将来的なイベントと思われる。アンケートによれば、参加者は沖縄へのリピーターが多く、イベントの満足度と再参加意図も高くなっている。今後は、前日の環境シンポジウムも含め、地元との密な連携で、より多くの関係者が関与する社会的に意義のあるイベントになることが望ましい。沿道に地元が用意したエイドや応援があればイベントのクオリティは上がる。よって回を追うごとに改善が加えられ、参加目標人数がクリアできるようになるよう努力を継続して欲しい。	参加者の満足度と再参加意図が高いことは、本イベントの強みであり、継続することによって、数値はさらに高まると考えられる。次年度は、目標値を達成した県外からの参加者に加え、県内でのPR活動に力を入れ、地元からの参加者を増やす努力をして欲しい。さらに間口を広げるために、距離やコースの難度を落とし、より広い参加者層の参加を可能にする工夫も必要ではないだろうか。
委員 2	やんばるの自然とアクティビティを題材とした事業内容は、他と差別化が図られ、独自のイベントとして発展する可能性がある。実績を見ると、県外からの集客も目標を上回っており、スポーツツーリズムを促進するメニュー（イベント）として期待される。	やんばるの自然を素材にしたメニュー（イベント）づくりは、今後、様々なものが考えられ、観光メニューとしてのスポーツツーリズムとして展開していくことが期待できる。地元の関係者と密に連携し、組織体制をしっかりと整備することで、円滑な運営を図っていく必要がある。
委員 3	沖縄観光の魅力ある資源の一つである「自然」を最大限に活用したイベントであり、コンセプト、今後の方向性が明確に示されたビジョンの下、実施されたイベントでありその意義が大きいくと考える。一方、初年度ということもあり、集客に苦戦したことは否めない気がする。準備にかける時間に制限があったとしても、やはり全体的に集客力が弱かった点や、海外からの誘客が行えなかった点は課題として認識すべき点では考える。一方、参加者へのアンケートなどについても行われており、かつ、その評価が総体的に高かった点は、今後集客の伸びしろを意味するものであり、不満度のアンケートの項目を一つ一つ解決につなげるとさらに拡充したイベントが遂行されるのではと感じた。また、地域自治体や、各企業とも連携を広く図りつつの展開についても今後の当該成長の可能性を感じた。	集客面について大きな課題があったと考えるので、プロモーション計画を見直すというのではないかと考える。また、昨今、SDGsについて様々な社会、エリア、企業で注目、対応がされている潮流もあるので、その面で、当該イベントはこの分野やでは親和性があると考えるのでこの点も是非当該イベントのコンセプトにご検討いただきたい。また、今後自走化に向けて中長期的に見た場合、運営資金的にどのような状況であったかも公開いただきたい。個人的には、沖縄観光の魅力を発信しつつ、エコ、SDGsの視点から大きな役割を果たすイベントになりうると考えるので是非拡充していただきたいイベントとして期待している。
委員 4	沖縄の自然、環境資源を有効に活用した事業内容で、コンセプト的に期待していた事業であったが、参加人数が目標に届いていなかったのは残念である。また、肝心な企画運営の点で不備が多く見られる。今後は、集客が目標に届かなかった原因、企画運営の課題を分析し、修正、充実を図れば誘客に結びつくのではないかと可能性は感じられる。	
委員 5	①沖縄の優位性、沖縄の自然を十分に活用しており、沖縄の優位性を生かしたイベントである。②③沖縄観光への貢献、スポーツツーリズムへの貢献、県外参加者は目標に達しているが、県内参加者が少ない。集客目標は150名であった。実績は1/3程度であり、集客での工夫がさらに必要。④事業内容、カヌー、自転車、ハイキングとやんばるの自然を満喫できる内容であった。⑤イベント運営、自走化に向けて集客規模と参加費、運営費を見直す必要があると思われる。	定着に向けて、地元参加者の増加を要望します。もっと積極的に県内各所に広報し、地域ぐるみのイベントとなることを期待します。
委員 6	①沖縄の優位性：やんばるの大自然を活用した取り組みで、沖縄の優位性を活かした内容となっている。 ②沖縄観光への貢献：県内での消費額が43000円と比較的高く、評価できる。 ③スポーツツーリズムへの貢献：集客人数は目標に達していないが、苦戦したのは主に県内参加者である。県外からの集客は目標を上回っていることは評価できる。また居住地も全国に分散していることから、複数のコミュニティから参加者が集まっていることが見て取れ、今後の伸びも期待しやすい。県外からの集客が50名で補助金額が（申請時点通りならば）約500万円なので一人当たりの獲得単価は約10万円。次年度単価を下げられると更に良い事業となる。 ④事業内容、⑤イベント運営：参加人数は少なかつたものの、報告書を見る限りにおいては運営体制もしっかりと確立されており安心感がある。また各成果を数字で分析することも好感が持て、数値分析を活かした、今後の事業改善に期待が持てる。	やんばるの大自然を活用した取り組みで、沖縄の優位性を活かした内容となっている。 県内での消費額が43000円と比較的高く、評価できる。今後さらなる消費誘導施策があるとさらに良い。 集客人数は目標に達していないが、苦戦したのは主に県内参加者である。県外からの集客が最も大事だが、イベントが定着して盛り上がりつつあるためには県内参加者も重要。地元団体との連携を強化し、県内参加者を増やす具体策を期待したい。また県外からの集客は目標を上回っていることは評価できる。居住地も全国に分散していることから、複数のコミュニティから参加者が集まっていることが見て取れ、今後の伸びも期待しやすい。今回参加してくれた各地の参加者が、「もう1人」連れてきてくれるような、「友人を誘える施策」があると参加者を増やせるのではないかと。 県外からの集客が50名で補助金額が（申請時点通りならば）約500万円なので一人当たりの獲得単価は約10万円。次年度単価を下げられると更に良い事業となり、県としては支援を継続しやすくなると考えられる。 報告書を見る限りにおいては運営体制もしっかりと確立されており安心感がある。また各成果を数字で分析することも好感が持て、数値分析を活かした、今後の事業改善に期待が持てる。

◆ビーチサッカー沖縄カップ

ビーチサッカー沖縄カップ		
委員	総評	改善点
委員 1	沖縄の自然を最大限生かしたビーチサッカーには、大きな成長余力が残されている。今年は、県外からのチーム数も増え、目標値の達成を実現しただけでなく、沖縄観光にも多大な貢献を行った。ただし、ベニューの収容力に限界があり、今後、分散開催などの課題も残されている。今回は、長い期間、イベント開催に向けた協力体制の確立を行ってきた主催者の努力が実った大会となった。	県内参加者の目標値は達成したが、県外参加者の目標値は未達で、今後の課題が残された。ただし日本ビーチサッカー連盟の関係者も多数来沖したように、公式なスポーツイベントとして定着することによって、持続性と自律性を備えたイベントに育って欲しい。今後、ビーチと環境問題、そしてSDGsとの関連等、大会が社会にもたらす意義について啓発するプログラムも付加して欲しい。それによって、大会の価値が高まり、協賛企業やメディアへの訴求効果が増すことになる。
委員 2	温暖な気候を最大限に活かしたイベントのコンセプトは評価高いと感じる。また、比較的ポトム時期にさしかかる期間において当該イベントの実施は沖縄観光の標準化を図る意味で大きいと考える。実際、参加チーム数も昨年比へ伸びており、一定の事務局の努力が表れているのではないかと考える。一方、読ませてもらった報告書の概要では参加者の声、ニーズ、評価について把握出来ず、説明不足している点があると感じる。当該イベントをさらに発展させるのであればその点の反応を運営に活かすという姿勢で是非取り組んでもらいたい。この点については極めて重要だと考える。また、キャバの制限があり規模の拡大について躊躇しているとお考えだが、とすれば、中身を充実させ、例えばプラスアルファの有名選手からのクリニックなどの企画の設定など、ブランド力を上げる検討も是非行うと良いかと考える。	次回以降は、子供たちのサッカー技術の向上のみならず人材育成という視点からも国際交流などの視点も是非検討いただきたい。現時点では、海外からの集客の目標、実績はないが、沖縄でビーチサッカーを通じた国際交流が図れるのではと考える。こうした要素を入れると当該イベントのブランド力もおのずから向上するのではと思う。
委員 3	①沖縄の優位性、沖縄の気候、ビーチを活用しており優位性を生かしている。②沖縄観光への貢献、スポーツツーリズムへの貢献、目標以上の集客があり、貢献していると考えられる。③事業内容、県外からも9チーム参加しており、順調に事業規模を拡大している。スポンサー獲得も比較的にスムーズであると考えられる。④イベント運営、ここ数年の運営実績があり、路上駐車や運営上のトラブルがなければ、運営はスムーズであると考えられる。	自走行化に向けたスポンサーセールスを強化しつつ、県外、海外からの参加チームを増やす取り組みをさらに行ってみたいかがでしょうか。
委員 4	冬期でも温暖な沖縄の優位性を活かした事業であり、集客についても目標を上回っており、誘客を見込めるコンテンツであると思料される。しかし、肝心の県外からの集客が伸びていないため、今後は、更なる企画のブラッシュアップが必要である。	
委員 5	①沖縄の優位性：12月のオフシーズンに、全国からビーチサッカーチームを集客できており、温暖な沖縄ならではの優位性を活かした取り組みとなっている。 ②沖縄観光への貢献：県内消費額が一人当たり53,000円と支援事業内で最も高くなっており、評価できる。平均宿泊数が2.4泊と、こちらは支援事業の中で最も短いことから、次年度「あともう1泊」促すような施策を取り入れることでさらなる事業成果を生むポテンシャルを感じる。 ③スポーツツーリズムへの貢献：目標には達していないものの、県外参加者が昨年度事業を大きく上回る220人となり評価できる。着実な成長を遂げている。県外からの集客が220名で補助金額が約423万円なので一人当たりの獲得単価は約19,200円と、補助事業としてのコストパフォーマンスも非常に高い。 ④事業内容、⑤イベント運営：報告書を見る限りが大変盛況に開催されており、また運営にも安定感が感じられる。今後スポンサー獲得などさらなる進化と自走行化を期待したい。	12月のオフシーズンに、全国からビーチサッカーチームを集客できており、温暖な沖縄ならではの優位性を活かした取り組みとなっている。 県内消費額が一人当たり53,000円。平均宿泊数が2.4泊だが、次年度「あともう1泊」促すような施策を取り入れることでさらなる事業成果を生むポテンシャルを感じる。 目標には達していないものの、県外参加者が昨年度事業を大きく上回る220人となり評価できる。着実な成長を遂げている。県外からの集客が220名で補助金額が約423万円なので一人当たりの獲得単価は約19,200円。次年度この数字をさらに下げられれば、県としても支援しやすく、また自走行しやすい。報告書を見る限りが大変盛況に開催されており、また運営にも安定感が感じられる。今後スポンサー獲得などさらなる進化と自走行化、並びに「沖縄のビーチサッカーの聖地化」を期待したい。
委員 6	本県の白いビーチを活用した同競技は、他よりも優位性は高いと思われる。また、プロチームが存在することも、同イベントを推進する上で重要となっている。しかし、実績を見ると、チーム参加のイベントではあるものの、参加人数が本県の観光振興に寄与するには少ないように思われる。今後、規模の拡大等も含めて検討が必要であろう。	定着化に向けては、運営体制や事業推進の手法などをさらにしっかり作り込む必要がある。収支を考慮した規模感も検討する必要があると思われる。県の観光振興に貢献するイベントとして定着していくためには、今後、アジア地域を想定した事業内容を考えることも必要であろう。

(5) モデル事業の採択

全応募事業に対して事前に県と事務局による参考評価を実施。事業の内容と評価ポイントに対応した整理を行った後、各委員への審査資料と評価シートの送付・回収を行って評価点を集計。委員会での審査資料を準備するとともに、各事業者へのヒアリングを実施して実施体制や実現性の調査を行った。

<審査の流れと審査の基準>

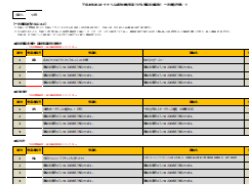
採択に向けた審査は、以下の流れにて実施。各事業の評価にあたっては以下の評価基準を設置。全ての委員の共通認識とすることで公平な審査が行なわれる環境作りを行った。今年度の事業方針を踏まえ、新たな評価項目を新設し配点比重と合わせ基準の調整を行うことで目的に合った事業選定を目指した。

5月27日(月)～6月7日(金) ●実施委員による1次審査(2週間)

1次審査方法

書類選考による1次審査で応募者の絞り込み

各委員にて応募事業者の提出書類による書類審査を実施。
各委員から事業を選定してもらい、事務局にて集約。(5～7事業を想定)
順位毎に点数化(1位→5点・5位→1点等)し、各委員の選定結果を集計。
上位10件程度の事業者を最終審査対象(プレゼンテーション)へ選定する。



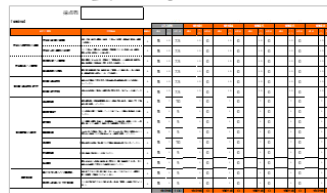
1次審査評価シート

審査書類の取りまとめ

- 1次審査評価シートを作成し、応募事業を点数化する
- 重点審査ポイントを明記し、公正な採択ができる

6月11日(火) ●実施委員会での最終審査(第1回支援委員会)

- 各提案を整理した委員会資料の作成
- 最終審査でのプレゼン実施



採点用シートによる委員会採点の簡略化

応募者プレゼン

応募者プレゼンにより企画内容を掘り下げて確認

提案書類による1次審査を通過した事業者に対して委員会時に応募者プレゼンを実施。
書類では判断しきれない企画の実現性や応募者のモチベーションなどを直接プレゼンで確認した上で選定にあたる。

プレゼン
POINT

- 1 関係団体との調整が行われているか・地域との関わりを確認
- 2 県外からの誘客見込みの根拠があるか
- 3 参加者・招聘者に対して多大な補助割合を行っていないか 等

委員最終審査

書類審査+応募者プレゼンにて事業選定

各委員へは、委員会前に全事業者の提案資料一式と参考評価シート、審査マニュアル・審査資料を発送し、実施委員による1次審査を実施。最終審査では、事業者によるプレゼンと企画に関する疑問点を事業者に直接確認した上で、より求める事業に合致した事業の採択を行う。

補助金総額 **3,600万円** の応募枠(新規支援枠、定着枠)に対する、採択事業者数、補助金額については県と協議のうえ、新たなスポーツマーケットの拡大も見据え、採択事業者、内容を精査し、有効な補助となるよう努める。

●イベント事業者の決定
令和元年6月11日(火)

決定

＜委員による書類審査の実施＞

以下の審査表により各事業の書類審査を実施。各応募枠の目的に沿った事業を選定するため、応募枠によって重視する項目の合計点を加重する配分を行った。

▶基礎点(0~5) × ウェイト(1.0~2.0) ⇒合計点

選定の種類	評価基準	基礎点	新規枠		定着枠		
			ウェイト	傾斜後	ウェイト	傾斜後	
沖縄の優位性の活用	沖縄の資源の活用	沖縄の持つ独自資源（自然環境・気候・スポーツ資源・観光資源等）に着目した事業か	0~5	2.0	0~10	1.0	0~5
	沖縄へ行く意味の形成	参加者が「他県ではなく沖縄へ行く意味・動機」を持てる魅力のある企画か	0~5	1.5	0~7.5	2.0	0~10
沖縄観光への貢献	地域経済への貢献	市場規模やターゲットが明確で、地域経済への貢献（観光客数・観光消費額の増加等）が見込まれる取組みか	0~5	1.5	0~7.5	1.5	0~7.5
	観光課題の解決	繁忙期と閑散期の格差縮小や地域への運営ノウハウの蓄積等、観光課題の解決につながる取組みか	0~5	1.0	0~5	2.0	0~10
沖縄スポーツツーリズムへの貢献	競合との差別化	県内外の競合イベントや他地域にはない、独自の魅力により差別化ができて企画か	0~5	1.5	0~7.5	1.0	0~5
	新規誘客の拡大	新たなターゲットの誘客に向け「投資する価値」があり、発展性のある企画か	0~5	1.5	0~7.5	1.5	0~7.5
小計					0~45		0~45
事業内容の視点	地域・関係団体等との連携	開催市町村や関連競技団体との連携体制が構築され、運営に足る実施体制が確わっているか	0~5	1.5	0~7.5	1.0	0~5
	意識と目的	提案者に主体性があり、事業を通じて達成していきべきビジョンや将来像が明確か	0~5	1.0	0~5	1.0	0~5
	市場性	競技人口の大小を問わず、スポーツイベントとしてのニーズがあり、集客が達成される市場性が見込めるか	0~5	1.5	0~7.5	1.0	0~5
	募集告知	告知するターゲットが明確で、効果的な集客ができるプロモーション計画を備えているか	0~5	1.0	0~5	1.5	0~7.5
	実現性	提案内容を確実に実施できる実施・運営計画がなされているか	0~5	1.5	0~7.5	1.0	0~5
	組織体制	継続的に開催できる実施体制か	0~5	1.5	0~7.5	1.5	0~7.5
	収益体制	収支設計が適切かつ妥当であるか	0~5	1.5	0~7.5	2.0	0~10
	将来性	補助終了後の自立化が見込める収支計画がなされ、また継続的な集客を実現できる計画を有しているか	0~5	1.5	0~7.5	2.0	0~10
小計					0~55		0~55
合計					0~100		0~100

新規枠加重…沖縄の資源の活用

定着枠…沖縄へ行く意味の形成、観光課題の解決、収益体制、将来性

＜審査結果の集約と事業の選定＞

各委員の書類審査の結果より点数順で各提案内容を整理。予算配分や事業価値などを審議した。支援委員会での最終審議を経て以下の通り事業選定を決定。

◆新規事業支援枠

	事業名	団体名	開催時期	実施会場
1	Asia × OKINAWA 空手交流キャンプ	事業者E	1月～2月	空手会館、道場他
2	フリースタイルフットボール 国際大会	事業者D	12/7～12/8 (2日間)	ライカム(北中城村)
3	SEA TO SUMMIT 沖縄・や んばる	事業者B	12/14～ 12/15 (2日間)	本島北部(羽地地域一帯)
4	アジアeスポーツツーツー ム 2019 in OKINAWA	事業者A	11/8～10 (名護) 1/11～13(豊見城市) 2/1(宮古島市)	ツールド沖縄会場付近(名護市) /あしび なー(豊見城市) /JTAドーム(宮古島市)
5	沖縄スラックラインフェス ティバル	事業者I	11月	未定

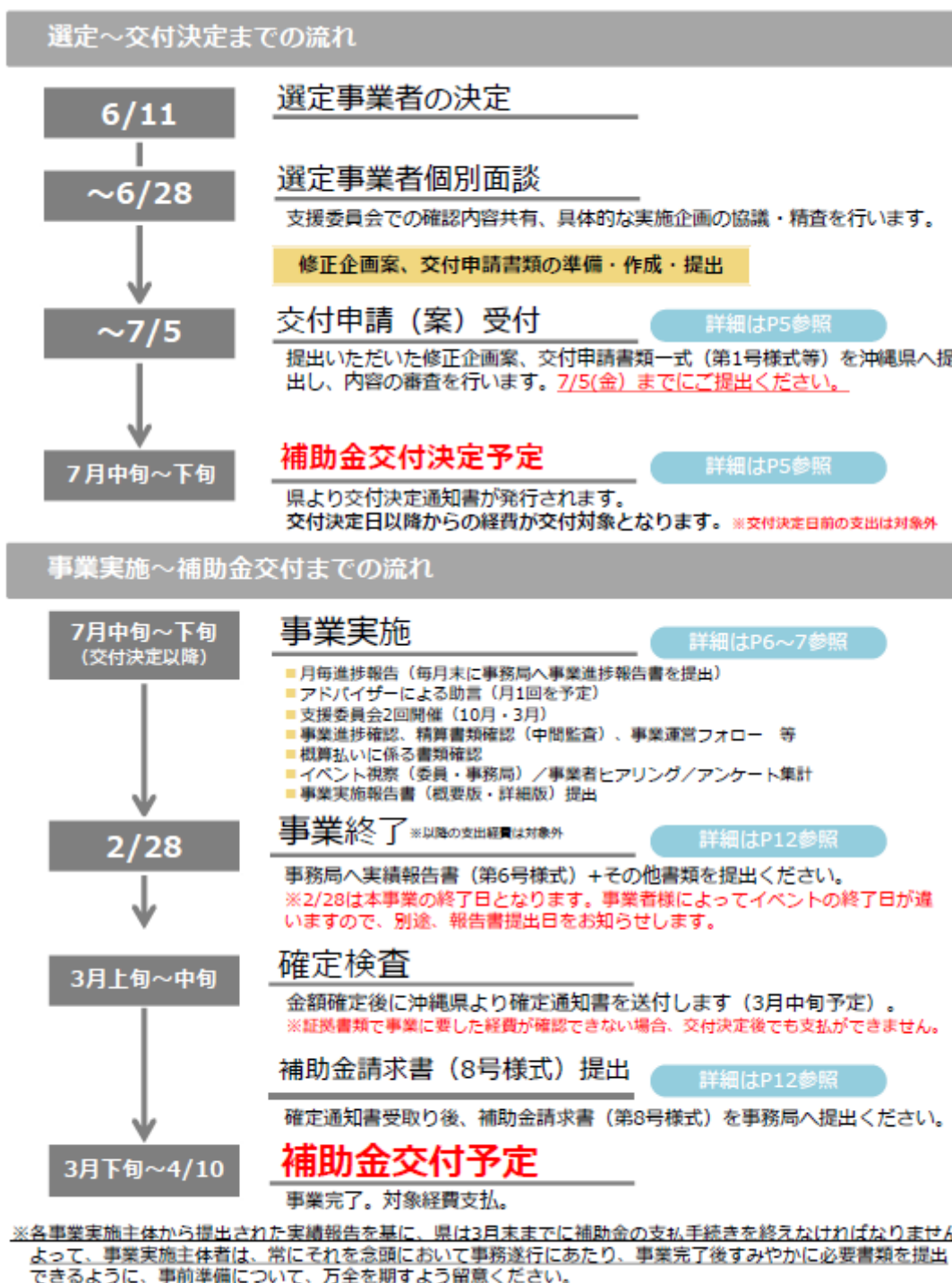
◆定着化枠

	事業名	団体名	開催時期	実施会場
6	ビーチサッカー沖縄カップ	事業者C	12/14～ 12/15 (2日間)	西原きらきらビーチ (与那原町)

4. スポーツイベントモデル事業に対する支援

(1) モデル事業の支援

モデル事業の支援では、モデル事業実施事業者が補助金の交付申請やレポートの作成および円滑な事業実施ができ、かつ事務局として事業管理ができるよう、事業実施マニュアル等を作成し事業内容を整理、各事業の進捗を確認するための月毎の進捗報告を義務付けるなど、事務局として事業の管理やサポートを行った。



(2) スポーツイベントモデル事業者に対するアドバイザー支援

今年度の新たな取り組みとして、事務局運営チームとして株式会社エスプロジェクトの菅間元代表取締役にアドバイジング業務を委託。

月に1度希望のある事業者と面談をし、アドバイジングを実施した。

アドバイザー（月1回程度）

菅間元（有限会社エスプロジェクト 代表取締役）

イベント・コンベンションの企画運営専門会社代表。

会社設立（平成10年）より20年の実績を有し、最近ではスポーツ

コンベンションを含めMICE事業の業務を多く受注。

国及び沖縄県、市町村等の実績も多く、海外・県外企業のインセンティブ、

スポーツコンベンションを実施。



アドバイザー フロー

平成31年度スポーツイベント支援事業

事業者様→アドバイザー菅間氏へアポイントの連絡

↳面談予定日時調整を行う。（実施場所は基本的には事業者様の事業所想定）

※頻度は月1回程度。基本的には直接顔を合わせた面談だが、スケジュールの都合等で難しい際は、メールや電話等の面談も可。

面談当日

↳事業者様より事業の進捗状況や、課題の共有→菅間氏よりアドバイジング

※面談頻度は月1回程度。スケジュールの都合等で難しい際は、

メールや電話等の面談も可。

※次回の面談予定日まで仮で決めておいてください。

面談後

↳事業者様は、面談で受けたアドバイスを意識しながら、事業遂行をお願いいたします。

↳菅間様は、所定の報告書（A4）へ面談内容を記録、事務局へ共有ください。

平成31年度 スポーツイベント支援事業 支援報告シート ●月						
支援実施日	令和 年 月 日 () : ~ :					
事業者名						
出席者						
ヒアリング内容						
(イベント開催に向けて、現状整理及び課題やその原因について記載をお願いします)						
支援(アドバイス)内容						
(事業者における今後の対応について記載ください)						
備考・連絡事項等						
■ 次回のアドバイザー支援予定日を記入ください。						
月	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	
記載例)8月		8/9(予定)				
8月						
9月						
10月						
11月						
12月						
1月						
2月	2/5(イベント)					

5. スポーツイベントモデル事業に係る効果測定

(1) 効果測定実施概要

今回採択を行った6事業全てに対して、以下の項目によるアンケートを早稲田大学スポーツマネジメント研究室と協働にて実施。

効果測定を行うにあたり、各事業で共通の調査項目を作成した上でその調査票をデータ送付し、各採択事業者へ配布、回収を行った上で事務局にて調査結果の分析と効果測定を実施した。

■ 調査項目の作成と、分析の方向性

①効果測定は過去8年間の調査票の作成・分析を行ってきた早稲田大学スポーツマネジメント研究室に継続して依頼を行うことで、将来的にも過去のモデル事業の比較分析ができる調査内容とした。また、過去に留意をし、アンケートのフォーマットを作成した。

1. 各事業者負担を減らすため、本事業の成果測定に必要な必須項目のみを抽出し、それぞれが行うアンケートに組み込む形で実施する。
2. 昨年度の課題として出た、付帯参加者の曖昧さや、保護者の代理記入について、アンケート上で区分がはっきりとわかるように改善する。
3. 様々なジャンルにまたがる各事業をできる限り同じ基準で比較し、本事業での誘客効果や、沖縄での定着発展の可能性を明らかにすることを目指す。

②測定項目については昨年までの内容を元に調査票を構築した経済効果（旅行者の消費額や、沖縄県内における経済効果と事業毎の支援金額の費用対効果など）、CS調査（満足度調査。沖縄におけるスポーツツーリズムの優位性や商品価値など）、ブランド調査項目（沖縄に対するイメージや、スポーツ資源などの認知度など）

【調査票】

各事業共通のフォーマットは、以下の内容にて用意した。

2019年〇月〇日

【イベント名】 アンケート

沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課

本アンケートは、沖縄県でのスポーツツーリズム推進に向けた情報を収集することを目的に、本大会の参加者の皆様を対象に実施しております。ご回答は匿名で全て統計的に処理しますので、皆様にご迷惑をおかけすることは絶対にごさいます。

調査の主旨をご理解いただき、率直なご回答をお寄せいただけますよう、お願いいたします。

ご自身についてお伺いします。

1. 性別	1 男性 2 女性	2. 年齢	() 歳
3. 未既婚	1 未婚 2 既婚	4. お子様の有無	1 いる 2 いない
5. 居住地	1 沖縄県外(都道府県) 2 沖縄県内		
6. 職業	1 会社役員 4 自営業 7 パート/アルバイト 10 無職	2 会社員 5 自由業 8 専業主婦 11 その他 ()	3 公務員 6 派遣社員 9 学生
7. 同伴者	1 なし 2 友人 3 家族 4 その他 ()		
8. 参加類型	1 参加者 2 関係者 3 観戦者		
	上記で1と答えた方 イベントに参加しない同行者(家族や友人等)の人数 () 人		

本イベントについて

1. 本イベントにどの程度満足されていますか。(○は1つ)

非常に満足 非常に不満

5 4 3 2 1

満足な点	
不満足な点	

7. 今回の沖縄旅行の往復に利用した航空会社をお選びください。(沖縄県内の移動は除いてください)

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|---------------------|
| 1. 日本航空 (JAL) | 2. 全日空 (ANA) | 3. スカイマーク (SKY) | 4. 格安航空
会社 (LCC) |
| 5. その他 () | | | |

沖縄の観光について

8. 沖縄を訪れたのは何回目ですか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 今回が初めて |
| 2. 過去にも訪れたことがある 今回も含め () 回目 ⇒ その内観光のみで () 回 |

9. 今回の沖縄での滞在日数をお知らせ下さい。

() 泊 () 日

10. あなたは大会参加以外に沖縄で観光されましたか
されますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

11. 3. で「1. はい」とお答えになった方にお伺いします。観光はいつされましたか。/されますか。
また、観光された・する予定の場所・内容を教えてください。

- | |
|-------------------|
| 1. 大会前 (観光の内容 :) |
| 2. 大会後 (観光の内容 :) |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。